

第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 (第14回)

日時：平成23年6月13日(月) 13:30 から 15:30 まで
場所：横浜市庁舎8階 8S会議室

■ 次 第 ■

1 開 会

13:30～

- (1) 事務局自己紹介

2 議 事

13:40～

- (1) 第2期横浜市地域福祉保健計画の中間評価について ＜資料1-1～2＞
※別途当日配布資料有

- (2) 第2期横浜市地域福祉保健計画推進状況及び各区の計画策定・推進状況について ＜資料2-1～4＞

3 報 告

14:40～

- (1) 公的機関向け業務指針の作成に向けた検討状況について ＜当日資料配布＞

- (2) ひとり暮らし高齢者実態把握・見守り推進事業について(案) ＜資料3＞

- (3) 地域活動者のための個人情報の手引きについて ＜資料4＞

- (4) 推進の柱3「幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げる」
ためのヒント集について ＜資料5＞

- (5) 横浜市地域福祉活動計画(市社会福祉協議会)について ＜資料6＞

第2期横浜市地域福祉保健計画 評価方法について（事務局案）

1 評価の目的 確認済※第10回策定・推進委員会資料(平成22年3月29日)

第2期横浜市地域福祉保健計画（以下「市計画」とします。）の推進状況について、住民参加がどの程度進み、地域の課題を解決するための仕組みがどの程度充実したかといった質的評価とともに、計画の推進状況を示す複数の指標を定め、計画スタート時からの推移を参考に評価します。

評価にあたって各区・区社協等から提供されたデータは、各区・区社協でも活用できるように資料として活用し、区地域福祉保健計画・地域福祉活動計画の推進及び評価の参考にするとともに、第3期横浜市地域福祉保健計画・地域福祉活動計画の策定へ活かしていきます。

2 評価方法 (1)~(3)確認済 ※第10回策定・推進委員会資料(平成22年3月29日)

(1) 評価指標について（平成21年度の策定推進委員会にて検討し、設定）

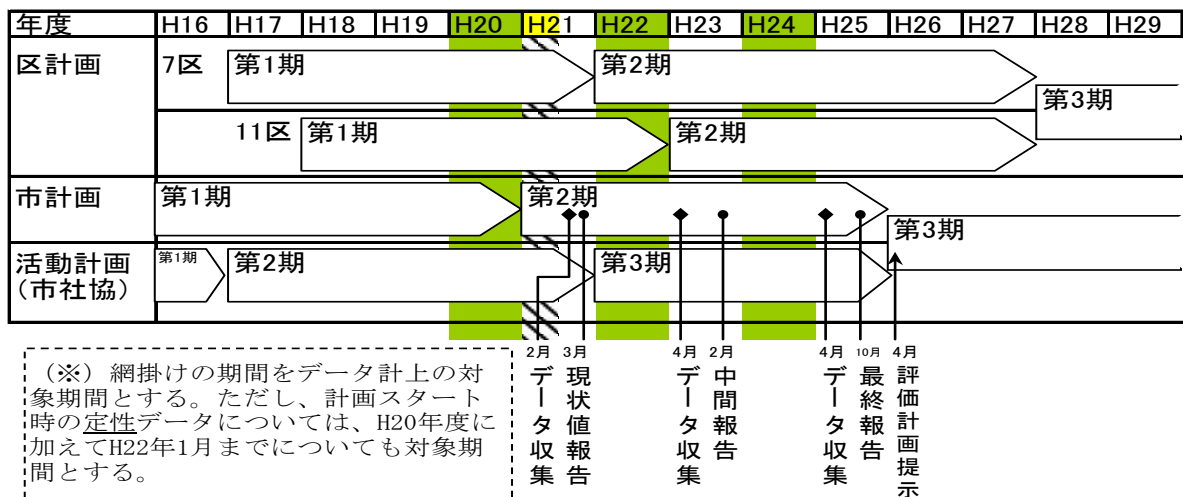
- ・市計画推進の柱1～柱3における主な取組の進捗よく状況を確認するための指標を設定
- (2) 計画スタート時<20年度データ（※）で現状値を収集>
- ・平成20年度の評価指標の定量及び定性データを収集し、確定
- (3) 中間<22年度データで23年度中間評価>
- ・平成20年度及び22年度の経年変化について、ABCの「3つの評価の視点」（※参考）で分析・検証

※参考：<3つの評価の視点>

- A 支援策の充実を評価する視点
計画に位置づけた支援策はどの程度行われたか、対象者の満足や生活の質の向上につながる取組ができたか
- B 地域主体形成のプロセスを評価する視点
計画策定・推進において住民が主体的に取り組めたか、地区別懇談会により多くの住民が参加したか
- C システムの改善・強化を評価する視点
解決すべき課題に対する仕組みづくりや取組を行えたか、地区別計画の取組がシステム化されたか

(4) 終了時<24年度データで25年度最終評価> (案)

- ・平成22年度及び24年度、スタート時との経年変化について、ABCの「3つの評価の視点」（※参考）で分析・検証



3 中間評価の方法（スケジュール案）

平成 23 年 6 月【第 14 回策定・推進委員会】

評価方法及びスケジュール案を検討。

平成 23 年 7 月【事務局で作業】

(1) 指標ごとに目指す方向の変化

※指標の基礎となる取組や事業の見直し・転換等の有無を確認。

※定量データの経年変化を見る。

※指標の数値以外に参考となる調査結果やデータを参考値として加筆・訂正。

(2) 3つの評価の視点で柱ごとに評価

※定性データ（数量以外に平成 20 年度からどのような変化、見直しがあったのか）の経年変化をみる。

(3) 3つの評価の視点及び柱ごとの評価（事務局案）を作成

(4) 市計画全体の評価（事務局案）を作成

平成 23 年 8～9 月【各委員へ送付：委員からの評価及び意見等を聴取】

(1) 事務局案を参考に、各委員で 3つの評価の視点及び柱ごとの評価

※視点及び柱ごとに「推進、変化なし、不十分」で選択し、その理由及び意見を記載

(2) 市計画全体への意見

平成 23 年 11 月予定【第 15 回策定・推進委員会】

各委員からの評価をまとめ、全体で意見交換を実施予定。

平成 24 年 2 月予定【第 16 回策定・推進委員会】

中間評価を確定。

第2期横浜市地域福祉保健計画 評価シート

資料1-2

指標のデータの経年変化について、中間(23年度)及び終了時(25年度)にABCの「3つの評価の視点」で分析・検証し、市計画が推進したといえるかどうかを総合的に評価

指標の経年変化(主に20年度、22年度、24年度)について、データの出典元の協力を得て、データを収集

※3つの評価の視点
 A→計画に位置づけた支援策はどの程度行われたか、対象者の満足や生活の質の向上につながる取組ができたか
 B→計画策定・推進において住民が主体的に取り組めたか、地区別懇談会により多くの住民が参加したか
 C→解決すべき課題に対する仕組みづくりや取組を行えたか、地区別計

第2期市計画 推進の柱1~3における主な取組

H21年度に定めた指標・目指す方向

柱	項目	主な取組	指標	目指す方向 (増減・数値など)	主にH20年度		年次推移 H22年度		H24年度		データの出典	評価の視点	
					定量データ	定性データ	定量データ	定性データ	定量データ	定性データ			
柱1 地域づくりを進める	1 地域で取り組む福祉保健活動	(1) 地域住民の交流と支援が必要な人への取組推進	配食サービスの実施団体数	増	93	団体	87	団体			・定量データ:地区社協データ集 定性データ:区社協	A	
			食事会の実施団体数	増	223	団体	219	団体					
			ミニデイサービスの実施団体数	増	54	団体	36	団体					
			地域ケアプラザ利用登録団体数	増	8,183	団体	8,926	団体					
		(2) 自治会町内会を基盤とした地域ぐるみの取組	自治会町内会を基盤とした支援が必要な人の見守り活動	充実									
		(3) 災害時要援護者避難支援事業の取組推進	災害時要援護者支援事業実施地区数	増	622	地区	1,467	地区					
		(4) 地域と連携したボランティア活動、当事者活動・テーマ型活動の推進	ボランティア活動への登録者数	増	39,243	人	45,724	人					
			地区ボランティアセンター数	増	11,166	人	10,459	人					
	(5) 健康づくり活動を通じた地域づくりの推進	健康づくり活動団体数	増	72	か所	83	か所						
	(6) 次世代を育む場としての取組	子育て中の親子がいつでも利用できる地域子育て支援の場の数(週3回以上開設のもの)	増	2,204	団体	2,475	団体						
(7) 学校・施設・企業等と地域の関係づくり	健康づくり活動団体数	増	72	団	89	団							
	青少年地域活動拠点の利用者数と青少年施設を活用した自然・科学・社会体験活動の参加者数【素案時の表記】 (計画策定時の指標:青少年地域活動拠点の年間延べ利用者数へ変更)	増	91	か所	101	か所							
(8) 地域福祉保健推進の環境整備	地域社会に貢献している企業数	増	68	企業	120	企業							
	(参考値)対象期間中に新たに地域社会に貢献した企業数	増	33	企業	29	企業							
2 地区別計画の策定・推進	(1) 地区別計画の策定・推進	地域ケアプラザの整備数	145か所	112	か所	121	か所						
		地区別懇談会の参加者数	増	10,967	人	14,278	人	*					
	(参考値)地区別懇談会等の延べ開催回数	増	568	回	767	回							
	地区別支援チーム(ない場合は区・区社協・地域ケアプラザ)で行った連絡会の回数	増	549	回	774	回	*						
(2) 地区別計画策定・推進組織と市民活動団体の協働	地区別計画を策定推進時、策定・推進組織を作った地区数	増	71	地区	135	地区	*						
	(参考値)対象期間開始前から策定・推進組織のある地区数 (参考値)対象期間終了時点の地区別計画数	増	71	地区	140	地区							
柱2 必要な人への的確に支援が届く仕組みをつくる	1 サービスの適切な利用の促進	(1) 公民が連携した相談支援の仕組みづくり	地域包括支援センターカンファレンスの開催回数	増	5,304	回	4,648	回					
			公的機関と地域の個人情報共有のルールづくり	作成									
		(3) 民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくり	民生委員対象の研修実施における、研修内容の質を高めるような工夫	充実									
			民生委員・児童委員の欠員数	減	111	人	192	人					
		(4) 福祉保健サービスに関する情報提供の工夫	福祉保健サービスに関する情報提供について、障害のある人にわかりやすい工夫をした媒体(福祉保健センターで発行した)数	増	12	回	36	回					
	(5) 権利擁護の推進	市社協あんしんセンターの法人後見契約者数	増	30	人	31	人						
		区社協あんしんセンターの日常生活自立支援事業契約者数	増	7	本	10	本	*					
		成年後見制度の関係機関による事例検討会等の開催回数	増	30	人	31	人						
		区社協あんしんセンターの日常生活自立支援事業契約者数	増	330	人	408	人						
		成年後見制度の関係機関による事例検討会等の開催回数	増	56	回	54	回						
2 福祉ニーズの把握、地域福祉保健サービスの充実、開発	(1) 地域の福祉課題や当事者の福祉保健ニーズの把握促進	区計画策定推進時、当事者の声の反映(直接又は間接的な聞き取りなど)	充実					*					
		区民アンケートの回答者数	増	12,171	人	5,857	人	*					
	(2) 地域福祉保健活動の情報の共有化と提供方法の充実	公的機関同士で相互に情報提供できる取組を行った数	増	786	回	803	回	*					
	(3) 生活圏域に合わせたサービスの整備	小規模多機能型居宅介護事業所数	増	32	か所	55	か所						
	(4) 地域福祉保健サービスの充実・開発に向けた行政など公的機関としての取組	行政などの公的機関が地域活動を支援した取組	充実					*					
	(5) 自立(自助・家族支援)を支援するサービスの充実	生活困難な家庭に対する地域での支援	充実										
(6) サービスの質を向上させる仕組み	苦情処理相談の質の向上	向上											
柱3 幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げる	1 多くの市民の参加促進	(1) 市民の地域参加を促進する情報提供などの充実	区・区社協・地域ケアプラザが、広報紙で特集を組んだり、広く情報を提供するために	増	46	本	111	本					
			区社協	増	596	本	688	本					
			地域ケアプラザ実績報告書	増	980	本	1,046	本					
		(2) 計画の策定や推進に参加しやすい仕組みづくり	地区別懇談会における幅広い市民の参加の工夫	充実					*				
	(3) 様々な形で地域福祉を支えるボランティア活動の拡充に向けた取組	市民向けボランティア講座の開催回数	増	335	回	389	回						
	(4) 関心のあるテーマや生涯学習活動から地域福祉保健活動へ広がる仕組みづくり	地域活動への参加のきっかけとなる講座の開催回数	増	455	回	504	回	*					
	2 活動者・団体の活性化支援	(1) 活動費助成などの環境整備	社協のよこはまふれあい助成金により活動を展開した団体数	増	1,632	団体	1,802	団体					
			(参考値)助成総額	増	94,365	円	93,561	円					
		(参考値)対象期間中に新規で助成金を活用した団体数	増										
		(2) 活動相互の協働促進	貸館登録団体同士のつながりを作る取組をしている地域ケアプラザ数	増	74	か所	95	か所	*				
(参考値)地域ケアプラザ数			増	112	か所	121	か所						
(3) 企業等との協働支援	地域と企業、学校、大学、事業者等との協働	充実					*						
(4) 様々なエリアの市民活動支援	活動範囲の違う(小地域と区域など)団体同士の情報交換	充実					*						
(5) ボランティアからコミュニティビジネスまで幅広い市民活動の推進策の検討	コミュニティビジネスに関する講座数	増	4	講座	11	講座							
3 地域福祉保健人材の育成	(1) 公的機関職員の地域福祉コーディネーターとしての養成	地域福祉コーディネーター養成研修の受講者数	増	0	講座	2	講座						
		地域福祉コーディネーター養成研修の講座数	増	361	人	375	人						
	(2) 市民がコーディネート機能を発揮できるような研修の充実	よこはま福祉・保健カレッジの参加者数	増	8	講座	7	講座						
4 幅広い参加につながるバリアフリーの推進	(1) 公的機関職員の地域福祉コーディネーターとしての養成	地域福祉コーディネーター養成研修の受講者数	増	9,026	人	7,934	人						
		地域福祉コーディネーター養成研修の講座数	増	641	回	647	回						
(2) 市民がコーディネート機能を発揮できるような研修の充実	福祉教育講座の開催回数	増	641	回	647	回							

計画の基本理念 誰もがいつまでも安心して暮らせる都市よこはまをつくる

第2期横浜市地域福祉保健計画 評価シート <平成22年度データ収集の結果(H23.6.13速報版)>

資料1-3

A 支援策の充実を評価する視点(計画に位置づけた支援策はどの程度行われたか、対象者の満足や生活の質の向上につながる取組ができたか)

柱	項目	主な取組	指標	目指す方向 (増減・数値など)	経年変化	年次推移						データの出典	評価の視点	柱の項目ごとの評価(事務局案…仮の状態です)			
						主にH20年度			H22年度						H24年度		
						定量データ	定性データ		定量データ	定性データ					定量データ	定性データ	
計画の基本理念 誰もがいつまでも安心して暮らせる都市づくりを進める	柱1 地域づくりを進める	(1) 地域住民の交流と支援が必要な人への取組推進	配食サービスの実施団体数	増	減	93	団体		87	団体		団体	A	【計画に位置づけた支援策はどの程度行われたか】 ・災害時要援護者支援事業の推進により取組地区数が増加したが、まだ市全体の半数にとどまっています。 ・地区社会福祉協議会による配食サービス、食事会、ミニデイサービスの団体数については、減少しています。定量データでは把握できない、町内会、ボランティア、NPOなどが開催する動きもあり、社会福祉協議会以外の実施主体による住民の交流の場などの活動の広がりも参考にする必要があります。			
			食事会の実施団体数	増	減	223	団体	地区社協以外に、地域ケアプラザの支援を受けた団体や、自治会町内会が実施している例もありました。	219	団体	地区社協以外に、ボランティアグループや自主グループが実施している例もありました。 新たに、団体同士の連絡会を開催し、横のつながりを構築した区もありました。	団体			・定量データ:地区社協データ ・定性データ:区社協		
			ミニデイサービスの実施団体数	増	減	54	団体		36	団体		団体					
		(2) 自治会町内会を基盤とした地域ぐるみの取組	自治会町内会を基盤とした支援が必要な人の見守り活動	充実									健康福祉局福祉保健課	A B C	【対象者の満足や生活の質の向上につながる取組ができたか】		
		(3) 災害時要援護者避難支援事業の取組推進	災害時要援護者支援事業実施地区数	増	増	622	地区	「災害時要援護者の避難支援システム策定の手引き」(平成19年2月横浜市発行)に基づき、各区でモデル事業を開始し、市域の約3割(単位自治会町内会単位で算定)で実施しました(21年度現在:1035地区)。	1,467	地区	「災害時要援護者の避難支援システム策定の手引き」(平成19年2月横浜市発行)に基づき、各区でモデル事業を開始し、市域の約5割(単位自治会町内会単位で算定)で実施しました。	地区	健康福祉局福祉保健課	A C	ア 支援策が充実している イ (H20年度と比較して)変わらない ウ 十分ではない 【選択した理由・意見など】		
		(5) 健康づくり活動を通じた地域づくりの推進	健康づくり活動団体数	増	増	72	団体	町ぐるみ健康づくり支援事業で区が支援した団体数は72団体。 自主的な健康づくり活動を行う地域住民の団体を区が研修会、補助金交付などで支援しました。	89	団体	補助金交付団体のみならず、健康づくり活動を行う他団体も含めた研修会や交流会の開催、運営に対する助言などを行い、団体間の連携・協力に取り組みしました。	回	健康福祉局保健事業課	A			
		(6) 次世代を育む場としての取組	青少年地域活動拠点の年間延べ利用者数	増	増	31,255	人	(平成21年度末状況)	32,776	人	※かがやけ横浜こども青少年プラン後期計画(計画期間:平成22年度～平成26年度)の策定により、指標を一部見直しました。	人	「かがやけ横浜こども青少年プラン」事業評価一覧	A C			
		(8) 地域福祉保健推進の環境整備	地域ケアプラザの整備数	145か所	—	112	か所		121	か所		か所	健康福祉局地域支援課	A C			

B 地域主体形成のプロセスを評価する視点(計画策定・推進において住民が主体的に取り組めたか、地区別懇談会により多くの住民が参加したか)

柱	項目	主な取組	指標	目指す方向 (増減・数値など)	経年変化	年次推移						データの出典	評価の視点	柱の項目ごとの評価(事務局案…仮の状態です)			
						主にH20年度			H22年度						H24年度		
						定量データ	定性データ		定量データ	定性データ					定量データ	定性データ	
計画の基本理念 誰もがいつまでも安心して暮らせる都市づくりを進める	柱1 地域づくりを進める	(1) 地域住民の交流と支援が必要な人への取組推進	地域ケアプラザ利用登録団体数	増	増	8,183	団体	地域ケアプラザ1か所あたりの平均 73.1 団体	8,926	団体	地域ケアプラザ1か所あたりの平均 73.8 団体	団体	・地域ケアプラザ事業実施報告書	B	【計画策定・推進において住民が主体的に取り組めたか】 ・災害時要援護者支援事業の推進により取組地区数が増加しましたが、まだ市全体の半数にとどまっています。 ・地域住民による地区別計画の策定・推進の組織を持つ割合が増加しました。(H20:45%→H22:64%) ・ボランティア登録者(7,500人増)及び地域ケアプラザ利用登録団体数(1か所あたり0.7団体増)が増加し、活動に関わる住民の裾野が広がりました。しかしながら、地域と連携した活動では、地域ケアプラザで登録者数が減少しました。ボランティア意欲のある住民が増加していることを鑑み、地域の課題を共有し、主体的に取り組めるきっかけづくりを今後も続ける必要があります。		
			(2) 自治会町内会を基盤とした地域ぐるみの取組	自治会町内会を基盤とした支援が必要な人の見守り活動	充実									健康福祉局福祉保健課		A B C	
			(4) 地域と連携したボランティア活動、当事者活動・テーマ型活動の推進	ボランティア活動への登録者数	増	増	39,243	人	平成20年度、5000人の新規ボランティア登録者がある一方、更新調査の際に取り消しを行う登録者もあり、ある程度のボランティアは常に入れ替わるものと考えられます。 登録を取り消す理由としては、転居・就職・結婚・病気のほか、決まった活動を長く続けるため、活動探す必要がなくなり終了するケースがありました。	45,724	人	平成22年度は、8,037名の新規のボランティア登録がありました。 更新調査の際に、転居・就職等の理由で取り消しを行う登録者もあり、全体としては平成21年度比で7,534人の登録者数の増加となりました。	人	・ボランティア関係事業概要		B	
		(6) 次世代を育む場としての取組	子育て中の親子がいつでも利用できる地域子育て支援の場の数(週3回以上開設のもの)	増	増	91	か所		101	か所		か所	「かがやけ横浜こども青少年プラン」事業目標	B			
			(1) 地区別計画の策定・推進	地区別懇談会の参加者数	増	増	10,967	人	平成20年度に地区別懇談会を実施した区は、12区でした。 地区別懇談会1回あたりの平均参加者数19.3人 このほか、平成21年度に地区別懇談会を実施した区もありました。	14,278	人	平成22年度に地区別懇談会を実施した区は、16区に増加しました。後発11区で計画を策定するにあたり、地区別懇談会の参加者数及び開催回数が増加しました。 区1か所あたりの平均参加者数18.6人 地区別懇談会形式ではなく、地域住民が策定委員として地区別計画の策定に関わった区もありました。	人	区事業企画担当	B		
				(参考値) 地区別懇談会等の延べ開催回数			568	回		767	回		回				
		2 地区別計画の策定・推進	地区別支援チーム(ない場合は区・区社協・地域ケアプラザ)で行った連絡会の回数	増	増	549	回	地区別懇談会の前にチームごとの連絡会を開催 地区別支援チームのリーダー・サブリーダー会議を開催 内容は、情報交換や地区別計画策定に向けた話し合いでした。(10区で地区支援チームが編成)	774	回	後発11区で第2期計画策定の取組を行いました。主な取組としては、策定地区別懇談会の前後にチームごとの連絡会、地区別支援チームのリーダー・サブリーダー会議を開催し、情報交換や担当地区の理解、地区別計画策定に向けた話し合いに取り組みました。(18区すべてで地区支援チームが編成)	回	区事業企画担当	B C			
			(2) 地区別計画策定・推進組織と市民活動団体の協働	地区別計画を策定推進時、策定・推進組織を作った地区数	増	増	71	地区	約5割の地区で策定推進組織が作られました。地区により、推進組織の中心が地区社協であったり、独自組織を立ち上げたりと違いがありました。22年度計画策定する区では、21年度から地区別の策定会議が開催され、第2期計画の推進組織について検討し始めている地区もありました。	135	地区	約6割の地区で策定推進組織が作られました。 先行7区中5区の68地区で新たな推進組織が生まれました。全体では135地区が新たな推進組織を立ちあげ計画の策定・推進に取り組みました。	地区	区事業企画担当	B C		
(参考値) 対象期間開始前から策定・推進組織のある地区数	—		—	71	地区		140	地区		地区							
(参考値) 対象期間終了時点の地区別計画数	—	—	159	地区		235	地区		地区								

C システムの改善・強化を評価する視点（解決すべき課題に対する仕組みづくりや取組を行えたか、地区別計画の取組がシステム化されたか）

柱	項目	主な取組	指標	目指す方向 (増減・数値など)	経年変化	年次推移				データの出典	評価の視点	柱の項目ごとの評価(事務局案…仮の状態です)	
						主にH20年度		H22年度					H24年度
						定量データ	定性データ	定量データ	定性データ				定量データ
計画の基本理念 誰もがいつまでも安心して暮らせる都市をいかに実現していくか！	柱1 地域づくりを進める	(2) 自治会町内会を基盤とした地域ぐるみの取組	自治会町内会を基盤とした支援が必要な人の見守り活動	充実						健康福祉局福祉保健課	A B C	【解決すべき課題に対する仕組みづくりや取組を行えたか】 【区別計画の取組がシステム化されたか】 ア 課題解決の仕組やその体制づくりが進んでいる イ (H20年度と比較して) 変わらない ウ 十分ではない 【選択した理由・意見など】	
		(3) 災害時要援護者避難支援事業の取組推進	災害時要援護者支援事業実施地区数	増	増	622 地区			1,467 地区		地区 健康福祉局福祉保健課		A C
		(4) 地域と連携したボランティア活動、当事者活動・テーマ型活動の推進	地区ボランティアセンター数	増	増	72 か所			83 か所		か所 区社協		C
			ボランティア団体数	増	増	2,204 団体	地域ケアプラザ1か所あたりの平均 19.7 団体	2,475 団体	地域ケアプラザ1か所あたりの平均 20.5 団体		団体 地域ケアプラザ事業実施報告書		B C
		(6) 次世代を育む場としての取組	青少年地域活動拠点の年間延べ利用者数	増	増	31,255 人	(平成21年度末状況)	32,776 人	※かがやけ横浜こども青少年プラン後期計画(計画期間:平成22年度～平成26年度)の策定により、指標を一部見直ししました。		人 「かがやけ横浜こども青少年プラン」事業評価一覧		A C
		(7) 学校・施設・企業等と地域の関係づくり	地域社会に貢献している企業数	増	増	68 企業	横浜型地域貢献企業認定制度で認定された企業数 (横浜型地域貢献企業認定制度は、企業の行う地域貢献活動として、高齢者や障害者を対象としたサービスの提供や、地域ボランティア活動、子育て環境の整備による雇用促進など様々な事業活動を企業に求めることで、企業と地域相互の信頼に基づく豊かな市民生活の実現を目指しています。)	120 企業	横浜型地域貢献企業認定制度で認定された企業数 (横浜型地域貢献企業認定制度は、企業の行う地域貢献活動として、高齢者や障害者を対象としたサービスの提供や、地域ボランティア活動、子育て環境の整備による雇用促進など様々な事業活動を企業に求めることで、企業と地域相互の信頼に基づく豊かな市民生活の実現を目指しています。)		企業 経済観光局経営・創業支援課		C
			(参考値) 対象期間中に新たに地域社会に貢献した企業数	—	—	33 企業		29 企業			企業		
		(8) 地域福祉保健推進の環境整備	地域ケアプラザの整備数	145か所	—	112 か所		121 か所			か所 健康福祉局地域支援課		A C
	柱2 地区別計画の策定・推進	(1) 地区別計画の策定・推進	地区別支援チーム(ない場合は区・区社協・地域ケアプラザ)で行った連絡会の回数	増	増	549 回	地区別懇談会の前にチームごとの連絡会を開催 地区別支援チームのリーダー・サブリーダー会議を開催 内容は、情報交換や地区別計画策定に向けた話し合いでした。(10区で地区支援チームが編成)	774 回	後発11区で第2期計画策定の取組を行いました。主な取組としては、策定地区別懇談会の前後にチームごとの連絡会、地区別支援チームのリーダー・サブリーダー会議を開催し、情報交換や担当地区の理解、地区別計画策定に向けた話し合いに取り組みました。(18区すべてで地区支援チームが編成)		回 区事業企画担当		B C
		(2) 地区別計画策定・推進組織と市民活動団体の協働	地区別計画を策定推進時、策定・推進組織を作った地区数	増	増	71 地区	約5割の地区で策定推進組織が作られました。地区により、推進組織の中心が地区社協であったり、独自組織を立ち上げたりと違いがありました。22年度計画策定する区では、21年度から地区別の策定会議が開催され、第2期計画の推進組織について検討し始めている地区もありました。	135 地区	約6割の地区で策定推進組織が作られました。先行7区中5区の68地区で新たな推進組織が生まれました。		地区 区事業企画担当		B C
(参考値) 対象期間開始前から策定・推進組織のある地区数			—	—	71 地区		140 地区			地区			
		(参考値) 対象期間終了時点の地区別計画数	—	—	159 地区		235 地区			地区			

平成23年度 横浜市地域福祉保健計画 関連事業取組状況

平成23年5月31日現在

資料2-1

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
策定・推進委員会					委員会①					委員会②				委員会③
推進の柱1 （「地域づくりをすすめます」）における取組	各区・地区別計画策定・推進	18区共通	・第2期計画推進・各種研修実施、計画策定・推進状況等の情報提供、係長会、担当者会議等での情報交換実施											
	災害時要援護者支援事業	・要援護者リスト各区に配布	新任者向け研修		担当者会議①	担当者会議②	研究発表会	担当者会議③					担当者会議④	
推進の柱2 （「必要な人に的確に支援が届く仕組みを作ります」）における取組	ひとり暮らし高齢者実態把握・見守り推進事業（案）				区、包括、民児協と協議を進め、具体的な実施方法、内容、実施地区等について、検討							平成23年度下半期に、モデル地区による取組を実施予定		
	ひとり暮らし高齢者等の見守り活動のあり方検討会	第3回見守り		第4回見守り活動検討会	第5回見守り	報告書の作成								
	一人暮らし世帯等安心生活支援モデル事業（栄区公田町団地地区、旭区旭北地区）	・NPO法人・区等による業務実施、					検証（一次的なまとめ）	職員研究発表会（地域福祉保健計画分科会） …区・地域ケアプラザ・区社協職員向けに報告会	H24年度にむけた事業展開の検討		市民向けシンポジウム			
	地域の見守りネットワーク構築支援事業（H23年度業務移管）	・継続5地区、新規3地区（計8地区）でモデル実施												
	地域活動者向け個人情報の取扱手引書作成（市社協が中心となって作成）			手引書完成	普及・啓発、活用									
	地域ケアプラザ協働連携指針の作成（公的機関業務指針）	H22年度あり方検討会報告書の説明	指針の策定方針検討 検討会立ち上げ	検討会開催 （年度末までに月1回程度の開催予定）								協働連携指針素案取りまとめ		
市民後見人のあり方検討		第1回	第2回		第3回		第4回検討委員会 社会福祉大会シンポジウム	第5回	検討委員会まとめ	スタートアップ講演会（市民向け）				
推進の柱3 （「幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げます」）における取組	分科会（地域活動への参加を増やすヒント集の活用）		冊子完成	普及・啓発、活用										
	地域福祉コーディネーター養成研修等の人材育成		・コーディネーター養成研修		・区域研修8区（西、中、南、磯子、港北、青葉、栄、泉）								コーディネーター養成研修振り返り	
	コミュニティビジネス講座									・活動者向け、支援者（公的機関）向け講座開催（11月に開催）				
その他	普及・啓発	・e-News発行（毎月）		・市民局との調整、協議			職員研究発表会（地域福祉保健計画分科会）	・民生委員への情報提供方法、具体的活用方法等の						

【20年度から22年度】第2期区地域福祉保健計画の策定推進状況(各区スケジュール)

資料2-2

H23.3.31現在

		20年度												21年度												22年度											
		20年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	21年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	23年	2月	3月
鶴見	策定・推進会議(あいねつと推進会議)		第1回	第2回	第3回							第4-5回		第1回	第2回	第3回		第4回					第5回	第6回													
	地区別懇談会・地区別計画策定推進																																				
	素案策定・区民意見募集																																				
	アンケート等基礎調査																																				
	フォーラム関係																																				
神奈川	策定・推進会議			第1回								第2回				第1回		第2回						第3回													
	地区別懇談会・地区別計画策定推進									第1回		第2回																									
	素案策定・区民意見募集																																				
	アンケート等基礎調査																																				
	フォーラム関係																																				
西	策定・推進会議(策定委員会)											第1回	第2回			第3回	第4回		第5回					第6回													
	地区別懇談会・地区別計画策定推進(区の状況に合わせて継続的に開催)																																				
	素案策定・区民意見募集																																				
	アンケート等基礎調査																																				
	フォーラム関係																																				
南	策定・推進会議																																				
	地区別懇談会・地区別計画策定推進																																				
	素案策定・区民意見募集																																				
	アンケート等基礎調査																																				
	フォーラム関係																																				
青葉	策定・推進会議																																				
	地区別懇談会・地区別計画策定推進																																				
	素案策定・区民意見募集																																				
	アンケート等基礎調査																																				
	フォーラム関係																																				
栄	策定・推進会議(推進部会)																																				
	地区別懇談会・地区別計画策定推進																																				
	素案策定・区民意見募集																																				
	アンケート等基礎調査																																				
	フォーラム関係																																				
泉	策定・作業部会・推進会議																																				
	地区別懇談会・地区別計画策定推進																																				
	素案策定・区民意見募集																																				
	アンケート等基礎調査																																				
	フォーラム関係																																				

先行区(平成21年度策定)

後発区（平成22年度策定）

		20年度												21年度												22年度											
		20年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	21年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	23年	2月	3月
中	策定・推進会議			推進委員会											推進委員会																						
	地区別懇談会・地区別計画策定推進			①地区社協懇談会												②地区社協懇談会																					
	素案策定・区民意見募集																																				
	アンケート等基礎調査																																				
	フォーラム関係																																				
港南	策定・推進会議			推進会議																																	
	地区別懇談会・地区別計画策定推進			(地区別計画策定)												(地区別計画策定・策定地区推進事業)																					
	素案策定・区民意見募集																																				
	アンケート等基礎調査																																				
	フォーラム関係																																				
保土ヶ谷	策定・推進会議																																				
	地区別懇談会・地区別計画策定推進																																				
	素案策定・区民意見募集																																				
	アンケート等基礎調査																																				
	フォーラム関係																																				
旭	策定・推進会議																																				
	地区別懇談会・地区別計画策定推進																																				
	素案策定・区民意見募集																																				
	アンケート等基礎調査																																				
	フォーラム関係																																				
磯子	策定・推進会議																																				
	地区別懇談会・地区別計画策定推進																																				
	素案策定・区民意見募集																																				
	アンケート等基礎調査																																				
	フォーラム関係																																				
金沢	策定・推進会議																																				
	地区別懇談会・地区別計画策定推進																																				
	素案策定・区民意見募集																																				
	アンケート等基礎調査																																				
	フォーラム関係																																				
港北	策定部会・分科会																																				
	地区別懇談会・地区別計画策定推進																																				
	素案策定・区民意見募集																																				
	アンケート等基礎調査																																				
	フォーラム関係																																				

		20年度												21年度												22年度															
		20年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	21年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	23年	2月	3月				
後発区(平成22年度策定)	緑	策定・推進会議(みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会)											第1回			第2回					第3回			第4回			第5回			第1回			第2回			第3回			第4回		
		地区別懇談会・地区別計画策定推進														地区懇談会																									
		素案策定・区民意見募集																																							
		アンケート等基礎調査														福祉保健活動団体対象																									
		フォーラム関係																																							
	都筑	策定・推進会議			第1回	第2回								第3回															第4回		第1回	第2回							第3回	第4回	第5回
		地区別懇談会・地区別計画策定推進																																							
		素案策定・区民意見募集																																							
		アンケート等基礎調査																																							
		フォーラム関係																																							
	戸塚	策定・推進会議(とつかハートプラン推進・策定委員会)																																							
		地域懇談会・地区別計画検討委員会																																							
		素案策定・区民意見募集																																							
		アンケート等基礎調査																																							
		フォーラム関係																																							
	瀬谷	策定・推進会議																																							
		地区別懇談会・地区別計画策定推進																																							
		素案策定・区民意見募集																																							
		アンケート等基礎調査																																							
フォーラム関係																																									

震災の影響により中止

【23年度～】第2期区地域福祉保健計画の推進状況(各区スケジュール)

資料2-3

H23.5.20現在

区名	推進取組内容	23年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	24年 1月	2月	3月
鶴見	第2期鶴見・あいねっと推進委員会			第1回								第2回	
	(イベント系)計画の普及啓発			推進フォーラムの企画打ち合わせ(区・区社協・CP所長・コーディネーター・推進委員)									推進フォーラム
	(媒体作成)計画の普及啓発			計画パンフ多言語版配架								年間活動まとめ(推進フォーラム資料冊子)作成	広報区版特集
	地区別計画の推進策 ※地域との懇談会開催含む	毎月地区ごと地区担当者会議・推進団体との連絡会・アドバイザーの派遣・地区フォーラムの開催・チームリーダー会議											
	区計画の推進策												
	調査(区民意見募集・インタビュー等も含む)			地区フォーラムや推進団体との連絡会の機会を通じて意見交換・調整がつけば区民意識調査の項目としてアンケート実施									
	職員(区社協・CPも含む)向け研修	区新任転入職員研修・新リーダー向け研修											
	今年度力を入れる取組等	※上記協議会、研修等 *新規ケアプラザ立ち上げ *つながろう・広げよう・見守りの輪・和											
神奈川	推進会議				福祉保健推進会議								福祉保健推進会議
	(イベント系)計画の普及啓発												地域別計画活動発表会
	(媒体作成)計画の普及啓発		広報よこはま神奈川区版を用いた啓発活動(連載および特集で年6、7回)										
	地区別計画の推進策 ※地域との懇談会開催含む		地域での話し合い実施(21連合地区別に2、3回)										
	区計画の推進策		担い手作り講座実施(全体講演会後各ケアプラザ毎に2、3回)										
	調査(区民意見募集・インタビュー等も含む)												
	職員(区社協・CPも含む)向け研修		新任・新採用職員研修	地域別担当者会議									地域別担当者会議
	今年度力を入れる取組等		※担い手作り講座、広報紙での啓発活動等										
西	策定推進委員会		第10回推進評価委員会										
	(イベント系)計画の普及啓発							お祭りなどで、アンケート実施		活動発表会			
	(媒体作成)計画の普及啓発						子どもを対象とした啓発活動など						
	地区別計画の推進策 ※地域との懇談会開催含む			(懇談会:各地区の実情にあわせて実施、希望地区にアドバイザー派遣。その他推進活動)									
	区計画の推進策											振り返り	
	調査(区民意見募集・インタビュー等も含む)			新たな区民のつながり意識調査 : アンケート実施、ヒアリング等補足調査 結果のまとめ、考察など									
	職員(区社協・CPも含む)向け研修		新任支援チームメンバー研修	区域研修(支援チーム研修)				支援チーム研修					
	今年度力を入れる取組等 (単位町内会等のつながりづくりについて)	単位町内会ごとの発災時の取組や、見守り活動等の日頃の地域のつながりについて、アンケートやヒアリングを通じて、現状把握を行い、地域の実情に合わせた支援等を行います。											

区名	推進取組内容	23年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	24年 1月	2月	3月
中	中なかいいネ！委員会			第1回								第2回	
	(イベント系)計画の普及啓発				PRイベント			中区民祭でのPR				活動発表会	
	(媒体作成)計画の普及啓発					通信8号		グッズ配布 通信9号		通信10号			通信11号
	地区別計画の推進策 ※地域との懇談会開催含む					各地区での議論		地区懇談会					
	区計画の推進策					中区みんなで小さなおせっかい宣言周知(団体・企業等)							
	調査(区民意見募集・インタビュー等も含む)							多言語版広報等					
	職員(区社協・CPも含む)向け研修			業務説明会				区域研修(8~11月)					
	今年度力を入れる取組等			各地区での「地区計画推進会議」の設置				※中区みんなで小さなおせっかい宣言					
南	南区地域福祉保健計画推進委員会												開催
	(イベント系)計画の普及啓発				親子の居場所講演会(計画推進事業・子ども家庭担当と共催)								
	(媒体作成)計画の普及啓発	広報よこはま南区版		広報よこはま南区版		広報よこはま南区版		広報よこはま南区版		広報よこはま南区版		広報よこはま南区版	推進状況概要版作成
	地区別計画の推進策 ※地域との懇談会開催含む	期末振り返り会議		地域支援チーム16地区各1回開催				中間振り返り会議					地区社協活動発表会
	行動提言別計画の推進策			テーマ別部会第1回開催					テーマ別部会第2回開催				
	調査(区民意見募集・インタビュー等も含む)												
	職員(区社協・CPも含む)向け研修							区域研修・地域支援チーム研修					
	今年度力を入れる取組等	チャレンジ支援事業公募		審査	助成金交付	交付団体支援							次年度募集
港南	地域福祉保健推進会議・策定推進委員会				推進会議	推進委員会①							推進委員会②
	(イベント系)計画の普及啓発		推進フォーラム										推進フォーラム
	(媒体作成)計画の普及啓発			地福計画ニュース①発行			地福計画ニュース②発行				地福計画ニュース③発行		事例集発行
	地区別計画の推進策 ※地域との懇談会開催含む			地区別計画推進助成金申請		地区社協単位の各地区での推進会議・事業							
	区計画の推進策								推進連絡会				
	調査(区民意見募集・インタビュー等も含む)				活動者情報交換会			活動者意見交換会					
	職員(区社協・CPも含む)向け研修	新転任・新採用職員研修		地区毎の会議や福祉保健センター内外関係者の会議などで全体計画との関連を確認していく									
	今年度力を入れる取組等			※地区別計画の推進									

区名	推進取組内容	23年度													
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	24年 1月	2月	3月		
保土ヶ谷	策定推進委員会													推進委員会	
	社会福祉大会(事例発表・パネル展示)計画の普及啓発										事例発表 パネル展示				
	(媒体作成)計画の普及啓発		地区懇談会、各種連絡会でパンフ配布・周知、広報区版特集(6月)												
	地区懇談会(22地区)地区別計画の推進策 ※地域との懇談会開催含む		地区の推進状況にあわせ、年数回 地区懇談会開催(リーダー会議、事前打合せもあわせて開催)												
	区計画の推進策		区社協との連絡会の中で推進状況の共有・方針検討												
	調査(区民意見募集・インタビュー等も含む)														
	職員(区社協・CPも含む)向け研修			職員説明	地区支援研修(社協検討予定)										
	今年度力を入れる取組等														
旭	推進委員会				第1回										
	(イベント系)計画の普及啓発												地域フェスタ (仮称)		
	(媒体作成)計画の普及啓発														
	地区別計画の推進策 ※地域との懇談会開催含む			地区代表者連絡会		地区別支援チームで地区別計画推進組織を支援									
	区計画の推進策			「区全域計画取組予定」の記入										「区全域計画取組」の結果記入	
	調査(区民意見募集・インタビュー等も含む)														
	職員(区社協・CPも含む)向け研修			新任研修 チーム研修											
	今年度力を入れる取組等		情報共有												

区名	推進取組内容	23年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	24年 1月	2月	3月
磯子	第2期磯子区地域福祉保健計画推進委員会				第1回								第2回
	(イベント系)計画の普及啓発			新任自治会町内会長・各種委嘱委員福祉活動説明会				福祉啓発事業(区社協と共催)					
	(媒体作成)計画の普及啓発						スイッチON磯子まめ通信の発行(毎月1回発行) 視覚障害者用リーフレット作成 啓発グッズ作成						
	地区別計画の推進策 ※地域との懇談会開催含む	申請受付		交付決定	交付		地区別支援取組事業(補助金)						
	区計画の推進策	地域支えあい事業		各地区訪問員連絡会・民児協での説明			各地区推進組織会議の開催支援				訪問員連絡会(全体会)		
							災害時要援護者のサポート体制づくりの推進						
	調査(区民意見募集・インタビュー等も含む)			区民意識調査 要援護者地域取組状況調査			地区の取組への取材						
	職員(区社協・CPも含む)向け研修	新転任・新採用職員研修			地区別支援チーム連絡会(第1回)			地区別支援チーム連絡会(第2回) 計画区域研修(社協)					
今年度力を入れる取組等					※単位自治会町内会へのアプローチ・支援、地域支えあい事業の推進								
金沢	金沢区地域福祉保健推進会議			第1回									
	(イベント系)計画の普及啓発											福祉保健の つどい	
	(媒体作成)計画の普及啓発		広報よこはま・WEB等による計画の周知・活動紹介										
	地区別計画の推進策 ※地域との懇談会開催含む			地区推進連絡会の開催(各地区年2回)									
	区計画の推進策			推進プロジェクトの開催(随時)									
	調査(区民意見募集・インタビュー等も含む)												
	職員(区社協・CPも含む)向け研修			新転任職員研修									
	今年度力を入れる取組等		補助金交付 事業の募集	補助金交付 決定									

区名	推進取組内容	23年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	24年 1月	2月	3月
港北	推進委員会									第1回			第2回
	(イベント系)計画の普及啓発									区民フォーラム			
	(媒体作成)計画の普及啓発		全区版印刷、配布	概要版・地区版印刷、配布									
	地区別計画の推進策 ※地域との懇談会開催含む							地区別計画推進委員会の支援					
	区計画の推進策	地域の子カラ応援事業(補助金交付・地域力推進担当と協力)								中間報告		活動発表会	
		福祉保健情報共有・応援プロジェクト											
				担い手不足実態把握のモデル事業									
職員(区社協・CPも含む)向け研修		新採用・転入職員研修		区域研修									
		地域支援チーム別研修						地域支援チーム別研修					
今年度力を入れる取組等													
緑	みどりのわ・ささえ愛プラン推進委員会	地区別計画策定委員	地区別計画策定委員会			地区別計画推進会議(制作部会)	2回(各単体各1~2回)					・発表会	第2回
	(イベント系)計画の普及啓発											活動発表会(仮称)	
	(媒体作成)計画の普及啓発	広報よこはま緑区版特集記事の掲載				地区別計画推進委員会通信①の発行		広報よこはま緑区版コラム記事にて		地区別計画推進委員会通信②の発行		報告書作成・発行	
	地区別計画の推進策 ※地域との懇談会開催含む		第1回地区別計画推進委員会連絡会	第1回地区別計画推進委員			第2回地区別計画推進委員会連絡会		第2回地区別計画推進委員				
	区計画の推進策		区政運営方針(重点事業として位置付け)										
	調査(区民意見募集・インタビュー等も含む)												
	職員(区社協・CPも含む)向け研修	区職員向け研修		区転入、新任職員向け研修									
今年度力を入れる取組等													
青葉	地区別計画推進会議					第1回		※原則2回程度。地区に応じて随時開催。				第2回	
	地区別計画の推進策			リーダー・サブリーダー会議				チーム会議随時(15地区の地区サポートチーム)					リーダー・サブリーダー会議
	(イベント系)計画の普及啓発										地区別計画事例発表会		
	(媒体作成)計画の普及啓発											区報特集号	
	区計画の推進策				地域福祉推進会議								地域福祉推進会議
	調査				区民意識調査								
	職員(区社協・CPも含む)向け研修			職員説明会				区域研修(仮)					
今年度力を入れる取組等							※地区サポートチームの基盤づくり・研修						

区名	推進取組内容	23年度												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	24年 1月	2月	3月	
都筑	推進委員会				第1回					第2回			第3回	
	(イベント系)計画の普及啓発									区民まつり			計 画 発 表 会 P R ・ 月 パ 間 ネ ル 展	
	(媒体作成)計画の普及啓発				概要版発行			情報紙発行			情報紙発行			
	地区別計画の推進策 ※地域との懇談会開催含む	各地区の実情に応じた地域懇談会(15地区)開催												
	区計画の推進策	← 進行管理 →												
	調査(区民意見募集・インタビュー等も含む)													
	職員(区社協・CPも含む)向け研修													
	今年度力を入れる取組等													
戸塚	推進委員会				第1回					第2回				第3回
	(イベント系)計画の普及啓発													
	(媒体作成)計画の普及啓発				概要版リー フレット作成									
	地区別計画の推進策 ※地域との懇談会開催含む	地域ケアプラザエリアごとの推進委員会で各々推進。開催回数はそれぞれ異なるが年2～6回を予定。												
	区計画の推進策													
	調査(区民意見募集・インタビュー等も含む)	区民意識調査												
	職員(区社協・CPも含む)向け研修													
	今年度力を入れる取組等													発表会
栄	栄区地域福祉保健推進会議・推進部会				第1回推進会議			第1回推進部会		第2回推進部会		第3回推進部会	第2回推進会議	
	(イベント系)計画の普及啓発													
	(媒体作成)計画の普及啓発			広報区版掲載 広報紙発行			広報区版掲載	広報紙発行		広報区版掲載		広報紙発行	広報区版掲載	
	地区別計画の推進策 ※地域との懇談会開催含む	地域支援チームによる計画推進の支援、計画推進のための経費を各地区の状況に応じて支出												
	区計画の推進策	推進会議・推進部会での検討結果を踏まえ、今後具体的な取組を推進していく												
	調査(区民意見募集・インタビュー等も含む)	3月実施の区民アンケートの結果について周知												
	職員(区社協・CPも含む)向け研修	新転任・新採用職員研 修 リーダー会議	地域福祉保健 計画 区域研修	各地区支援チーム会議				リーダー会議	各地区支援チーム会議				各地区支援チーム会議 リーダー会議	
	今年度力を入れる取組等	※上記推進会議・推進部会、区域研修等												

区名	推進取組内容	23年度												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	24年 1月	2月	3月	
泉	泉区地域福祉保健推進協議会			新委員説明		開催						開催		
	推進シンポジウム									準備			開催	
	推進協だより						発行					発行		
	アドバイザー派遣事業・地区別計画推進 ※地域との懇談会開催含む													
	シンボルマーク・川柳の活用			シンボルマーク・川柳活用										
	調査(区民意見募集・インタビュー等も含む)													
	職員(区社協・CPも含む)向け研修		新転任 職員研修			ファミリーセッション グラフィック研修								
	今年度力を入れる取組等			※上記協議会、研修、計画のPR等										
瀬谷	全域計画推進懇談会			第1回								第2回		
	(イベント系)計画の普及啓発								シンポジウム					
	(媒体作成)計画の普及啓発					広報よこはま 取組紹介		広報よこはま 取組紹介		広報よこはま 取組紹介		広報よこはま 取組紹介		
	地区別計画の推進策 ※地域との懇談会開催含む			地区別計画推進 懇談会(第1回)	リーダー会議 12回/年(毎月)	チーム会議(随時)	情報交換会 2回/年			地区別計画推進 懇談会(第2回)				
	区計画の推進策		庁内推進会議(課長会・係長会) 各2回/年		地域福祉保健推進会議 2回/年									
	調査(区民意見募集・インタビュー等も含む)													
	職員(区社協・CPも含む)向け研修	①新採用、異動者(区のみ) ②新人、新任研修(区、区社協、ケアプラザ) ③新任リーダー向け、④転入責任職の研修を開催												
	今年度力を入れる取組等		全域計画・地区別計画の推進											

ひとり暮らし高齢者実態把握・見守り推進事業について（案）

1 趣 旨

民生委員・児童委員（以下「民生委員」）及び地域包括支援センター（以下「包括」）に対して、行政が保有する個人情報（75歳以上のひとり暮らし高齢者の名簿）を提供し、実態把握を行った上で、必要な見守り、相談支援を行います。

実施にあたっては、民生委員、包括と区福祉保健センターが情報を共有し、連携して取り組みます。

※ この取組は、目的外に実施機関以外の第三者に対して、本人同意確認を経ずに個人情報を提供することになるため、市個人情報保護条例第10条第3項に基づき、個人情報保護審議会（第98回 平成23.3.23実施）の審議に付したところ、公益上特に必要があると承認されました。

2 提供する個人情報

提供先	民生委員、包括 (区福祉保健センターを通じて、ひとり暮らし高齢者名簿を提供)
情報提供の対象者	在宅で75歳以上のひとり暮らし高齢者 (約11万2千人、約29人/1民生委員)
提供情報の内容	氏名・住所・年齢・性別・電話番号・要介護度・居宅介護支援事業者名 (住民基本台帳、外国人登録データ、介護保険制度データを使用)

3 今後の予定

区、包括、民児協と協議を進め、具体的な実施方法、内容、実施地区等について、検討していきます。(平成23年度下半期に、モデル地区による取組を実施予定)

※裏面に、参考資料あり

民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりに関する調査の結果について **最終結果版**

1 調査の概要

調査対象	民生委員・児童委員である方のうち、平成22年12月1日時点で新任の方及び主任児童委員である方を除いた 2,844人
調査方法	地区民生委員児童委員協議会を通じて調査票を配布、郵送にて回収
調査時期	平成22年12月15日～平成23年1月14日
回収結果	2,114票（回収率74.3%）

2 主な調査結果（高齢者を対象とした活動に関する個人情報の提供・共有を中心に）

力を入れて訪問している対象者（問4）	・「一人暮らし高齢者（約97%）」「全員が高齢者の世帯（約46%）」「介護が必要な高齢者がいる世帯（約43%）」「家族同居でも一人で過ごす時間が長い高齢者がいる世帯（約36%）」
訪問理由を説明する際の悩み（問6）	・①「あまり悩んだことはない（約68%）」②「悩んだことがある（約27%）」 ・①の理由は、「民生委員・児童委員であることを告げれば理解してもらえることが多い（約93%）」 ・②の理由は、「『行政からの配布物がある』などの訪問する明確な理由がない（約55%）」「民生委員・児童委員の存在が知られていない（約50%）」「セールスなどと間違われたいための説明が難しい（約26%）」
活動上大変だと感じること（問7）	・「見守りや支援の必要がある方の情報を持つ機関（区役所、地域ケアプラザ等）から、情報を教えてもらえない（約56%）」「見守り活動は民生委員・児童委員中心となっており、必ずしも地域全体での取り組みにはなっていない（約45%）」「担当地区内でいわゆる『孤立死』や『高齢者所在不明問題』などが発生するのではないかとこの心配がある（約42%）」
高齢者の個人情報を提供する必要性（問8）	・①「提供する必要がある（約85%）」②「どちらとも言えない（約10%）」③「提供する必要はない（4%）」 ・①の対象者は、ア「一人暮らし高齢者（約92%）」イ「全員が高齢者の世帯（約71%）」ウ「介護が必要な高齢者がいる世帯（約45%）」 ・①のアのうち、情報提供が必要な年齢層は「70歳以上（約44%）」「75歳以上（約33%）」（区によっては、「75歳以上」の方が「70歳以上」を上回っている） ・①のイのうち、情報提供が必要な年齢層は「75歳以上（約45%）」「70歳以上（約36%）」（区によっては、「70歳以上」の方が「75歳以上」を上回っている）
活動しやすくなるために必要なこと（問10）	・「見守りや支援の必要性がある方の情報について、民生委員・児童委員と関係機関（区役所や地域ケアプラザ等）が共有すること（約77%）」「地域全体で見守り・支えあいを進めていくための仕組みづくり（約65%）」「支援が必要な方への対応について関係機関（区役所や地域ケアプラザ等）と検討する場の設置（約44%）」
自由意見欄	・711人（33.6%）の方から、842件の意見があった。意見を分類したところ、「行政からの個人情報の提供が必要（情報入手が困難）」が約31%（N=711以下同じ）と最も多く、次いで「民生委員の仕事の多さ・忙しさ・責任の重さ」が約16%、「地域及び関係機関との連携・協力が必要」が約15%。

個人情報について
誤解していませんか？

わかる！

地域活動者のための

個人情報

の手引き

個人情報は誰にとっても大切なものです。

正しく理解し、大切に扱うことで

相手との**信頼関係**を築くことができます。

人と人との信頼関係に基づく「情報の共有」が、
誰もが安心して暮らせる地域社会をつくる！





個人情報の重要性を理解し、適切に取り扱うことが大切です



この手引きでは、地域で活動する個人および団体を含めて「地域活動者」と表記しています。



地域づくりと個人情報



①そもそも 個人情報とは？

特定の個人を識別することのできる情報のこと

氏名・生年月日・住所・家族関係・職業など。生年月日や性別は、それだけでは特定の個人が識別されませんが、氏名等と組み合わせて使用することで特定の個人を識別できれば個人情報にあたります。写真や映像も個人情報になる場合があります。

②地域活動者と個人情報の関係

「個人情報保護法」では・・・
「個人情報は、個人の人格尊重の理念の下に慎重に取り扱われるべきものであることにかんがみ、その適正な取扱いが図られなければならない。」と定めています。

「横浜市個人情報の保護に関する条例」では・・・
市民の責務として、「市民は、個人情報の保護の重要性を認識し、個人情報を適切に取り扱い、他人の権利利益を侵害することのないよう努めなければならない。」と定めています。

個人情報を扱うときは、法律の趣旨を踏まえ適切に取り扱うことが大切ですが、法の対象はあくまで5,000件を超える個人データを事業活動に利用している**事業者**です。**個人はもちろん、ほとんどの地域活動団体は法の対象には含まれていません。**

③地域の中でのいわゆる“過剰反応”

皆さんの地域でこんなことが起こっていませんか？



自治会の名簿が作れなくなった！

見守り活動の情報が得にくくなった！

これらのいわゆる“過剰反応”は、法律の意図するところではありません。「個人の権利利益の保護」と「個人情報の有用性」のバランスを図りながら、個人情報を適切に管理し、取り扱うことが大切です。

★個人情報を大切に取り扱い、地域づくりを進めるためのポイントは、次の3つです！

ポイント1

相手との信頼関係を作ることを、まず第一に心がけましょう

一人ひとりを支援し、支えあいのまちづくりを進めるためには、相手の個人情報を大切に取り扱いながら、支援の輪を広げていくことが必要です。

もしも、あなたの氏名・住所・電話番号が書いてある紙が道端に落ちていたら、話したことのない近所の方があなたの生活の様子を知っていたら、どんな気持ちがしますか？

信頼関係を築くためには、相手が大切にしたいものを、大切に扱うということ。単に個人情報の法律やルールを守るということではなく、信頼関係を築くために、個人情報を大切に扱うことに心がけましょう。



◆私たちが配慮しなければならないこと プライバシー◆

プライバシーとは・・・

「個人の私生活に関する情報や一般の人に知られていない情報」のことです。個人の思想や家庭の内情等、ある人は公開していても、ある人にとっては絶対に知られたくない場合があるなど、その範囲は本人にしか測れないものです。

地域で支援活動を上手に行うためには、個人情報の取り扱いと共に、一人ひとりにプライバシーがあることを認識し、適切な配慮を心がけることが必要です。



ポイント2

個人情報を扱うためのルールを理解しましょう

- 本人にとって大切なものであることを認識する。
- 利用する目的を特定しておく
- 目的を超えて情報を取り扱うことはしないようにする。
- 本人に目的と使用方法を伝え、本人の同意（了解）を得る
- 情報を他の人や団体へ提供することについて、本人の同意（了解）を得る



◆考えてみましょう◆

「皆さんの地域で、個人情報の正しい取扱いについてよく理解するために、どんなことができますか」

ポイント3



個人情報を大切に取り扱い、助けあいの輪を広めましょう

個人情報の保護は、個人の権利・利益を守るために重要です。しかし、支援を必要とする方の情報がなければ、困っていることなどを聞く手段も限られてしまいます。個人情報の正しい扱い方を理解し、本人から同意を得ることで、支援する方法や内容が広がります。

包括的に了解（同意）を得る

本人の支援活動という目的の範囲内で第三者へ情報を提供することをあらかじめ説明し、了解（同意）を得ている場合は、その都度了解（同意）を得なくても、第三者へ情報を提供することができます。

ただし、本人から提供しないでほしいと申し入れがあった場合は、提供を中止する必要があります。

本人の了解（同意）を得ずに個人情報を提供する場合

あらかじめ本人の了解（同意）を得ないで、第三者へ情報を提供することはできません。

ただし本人の生命・身体に危険がある等の緊急時は、本人の了解（同意）を得ずに、第三者へ情報を提供することができます。

◆考えてみましょう◆

「皆さんの地域で、個人情報を大切に取扱い、支援を広げていくために、どんなことができますか」

公的機関との情報共有について



地域の中で支援していくためには、公的サービスの利用も必要となり、公的機関との情報共有も欠かせません。

行政職員や公的な福祉の関係者（民生委員・児童委員、地域ケアプラザ、区社会福祉協議会など）には守秘義務が課せられています。生命・身体・財産に関わることで、「緊急を要する」場合は、本人の了承（同意）がなくても、公的機関へ相談をお願いします。

地域の方々から信頼され、活動を応援していただけるよう、「個人情報」は正しく理解し、大切に扱うことが大切です。活動を通じて「支援が必要な人に支援が届き、助けあいの輪をつくる」そんな地域づくりに取り組んでいきましょう。

個人情報保護法について（消費者庁ホームページ）
<http://www.caa.go.jp/seikatsu/kojin/index.html>



発行 平成23年6月
社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会 経営企画部
〒230-8482 横浜市中区桜木町1-1
TEL 045-201-2090 FAX 045-201-8385
横浜市 健康福祉局 福祉保健課
〒231-0017 横浜市中区港町1-1
TEL 045-671-3567 FAX 045-664-3622

地域活動者に耳より情報

人が集まる！ 活動が続く！

地域活動のヒント集



平成23年6月

第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会

横浜市健康福祉局／横浜市社会福祉協議会

はじめに ～このヒント集のコンセプト～

地域では、自治会町内会、ボランティア、NPO団体等によってさまざまな活動が実施されていますが、活動を支える担い手の不足、後継者の育成といったものが、活動されている方の共通の悩みとしてあげられます。具体的には、

- ・新しい担い手をどのように見つけていくか
- ・活動参加のきっかけをどのようにつくっていくか
- ・活動に継続して参加してもらい、活動を継続・発展させていくためにはどのようにしたらよいか

といったことがあげられると思います。

一方で、“何かをしたい、地域の役に立ちたい、自分のできることは何か”といった思いを持っている方はたくさんいます。

そこで、既に地域活動をしている方々が、新たな人が地域活動に参加するためのきっかけをつくったり、継続的な参加につながっていくようにしていくためには、どのようにしたらよいかということをおこのヒント集にまとめました。さまざまな事例や活動者からのヒアリングを基にし、悩みを抱えながら活動されている方の視点にたって作成しています。

このヒント集は、決して、正解を集めたものでも、これさえやれば安心というものでもありません。活動者として悩みを経験した人たちのそれぞれの思いと、それぞれの工夫をまとめたものです。

また、地域ケアプラザ、区社会福祉協議会（区ボランティアセンター）、区民活動支援センター等、活動を支援しているみなさまにとっても、地域活動をしている方からの相談に対する支援方法を考える際の参考となるよう作成しています。

このヒント集がきっかけとなり、多くの方が地域活動に参加し、さまざまな活動が生まれ、継続し、誰もがいきいきと暮らしていける地域づくりにつながっていくことを願っています。



～ヒント集の見方～

①「解決の視点」ごとに、「解決に向けたヒント」を記載しています。

②「解決に向けたヒント」ごとに、「具体的ヒント」を記載しています。
 (※複数あるため、数ページにまたがっています)

③ヒントに対する効果を記載しています。

1-1 自ら探す

解決の視点

一緒に活動する仲間を見つける

そのためには、

自ら探す

解決に向けたヒント！

解決に向けた具体的ヒント

①日常生活で会う人とのつながりから、新たな仲間を見つける
 ～PTA活動、カルチャーセンターなどをきっかけに～

効果

直接声かけをした人が仲間になってくれただけでなく、他のメンバーや知り合いにも声かけをしてきて、予想以上に新たな仲間が増えた(参加者が増え、人材と活動に広がり生まれた)。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

PTA活動やカルチャーセンター等、日常のつながりから、新たな仲間は見つかります

PTA活動は自分の子どもに直接関係する活動であり、保護者としての責任感が強く、共通点がある中での集まりなので、強いつながりと連帯感が生まれます。こういった日常的なつながりをきっかけとして誘い込むことで、一人だけでなく多数の人を引き込むことができる可能性があります。

このような点を意識しながら、声かけをしてみてもどうでしょうか？

1-1 自ら探す

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

放課後の活動(放課後キッズクラブ、はまっ子ふれあいスクール、放課後児童クラブ等)に子どもを通わせている父親からつながる輪

子どもの放課後活動を通じてお父さん同士も繋がっていますが、子どもが参加しなくなると同時に、お父さん同士の繋がりもなくなってしまうことが多いものです。

会社とは違う、上下関係のない繋がりを求めている人も多くは！と思い、「夏祭りではポップコーンを作って！」とお願したところ、お父さんたちが快く手伝ってくれました。また、こういった関係ができてから、青少年指導員や体育指導委員を担ってくださるお父さんも出てきました。

(「仲手原マザークラブ」より)

同じサークルや団体で活動してきたメンバーから見つける

○同じ育児サークルで一緒に子育てしてきたお母さんや、育児サークルリーダーの経験のあるお母さんに声を掛け、自分の新しい子育て支援の活動に協力してもらいました。

○自分の団体の活動以外に、民生委員としても活動しています。民生委員活動の中で知り合った人が、自分の団体のメンバーに入ってくれることがしばしばあります。会社勤めを終え、「何かやりたい」と感じている人は多いと思います。常にそういった情報に敏感であるよう心がけ、声かけを行っています。

(「仲手原マザークラブ」より)

困っているときこそ、近くの人々が助けてくれる

障害児がいる家族のサポート活動を始めようとした当初、サポートをしたいという思いこそあれ、ゼロからのスタート同然でした。当初、社協の存在も、NPOという活動形態も知りませんでした。経営ノウハウも、資金も特別ありませんでした。しかし、ボランティアの仲間など周囲の人々や、地域の社会福祉協議会も家族へのサポートの必要性を感じていたため、活動への協力が得られ、NPOとしての活動は自然な流れで始まっていきました。

「困っているからこそ助け合いは生まれる」もので、主婦友達や子どもの学校のPTA仲間など、昔からのなじみの人々が協力をしてくれました。大家さんや市役所職員、税務署の担当者までも協力してくれました。

(「NPO法人あいあい」より)

④ヒントがイメージしやすいよう、事務局からの解説、もしくはヒアリングや分科会委員からの具体的な話をまとめ、具体的な行動・エピソードとして記載しています。
 (ヒアリングで得た具体的な行動・エピソード等については、文末にヒアリング先の団体名を記載しています。記載がないものは、分科会委員からのメッセージです。
 ※ヒアリング先一覧 P 49 参照
 ※分科会委員名簿 P 48 参照)

一緒に活動する仲間を見つける、 その仲間が継続して活動に参加していくためのヒント

活動を支える担い手の不足、後継者の育成といった悩みを解決するために、次の2つの解決の視点を基に、「解決に向けたヒント」をご紹介します。

解決の視点

1 一緒に活動する仲間を見つける…………… P 3 ~ 26

新たに活動をしたいという仲間を見つけたり、活動に参加してみたいと思わせるきっかけをつくるためのヒントをご紹介します。

(1) 自ら探す

-
-
- ① 日常生活で出会う人とのつながりから、新たな仲間を見つける…………… 3
 - ② 地域のキーパーソンを頼りにする…………… 5
 - ③ 新たな仲間となりうる人をヘッドハンティングする…………… 7

(2) 声かけを工夫する

-
-
- ① 活動に参加してくれそうな人の情報をこまめにメモし、その情報をもとに声をかける…………… 8
 - ② 参加者自身の関わり方やメリットがイメージできるよう説明をする…………… 9
 - ③ 受け手（利用者）も活動の仲間になりうる…………… 11

(3) 効果的にPRする

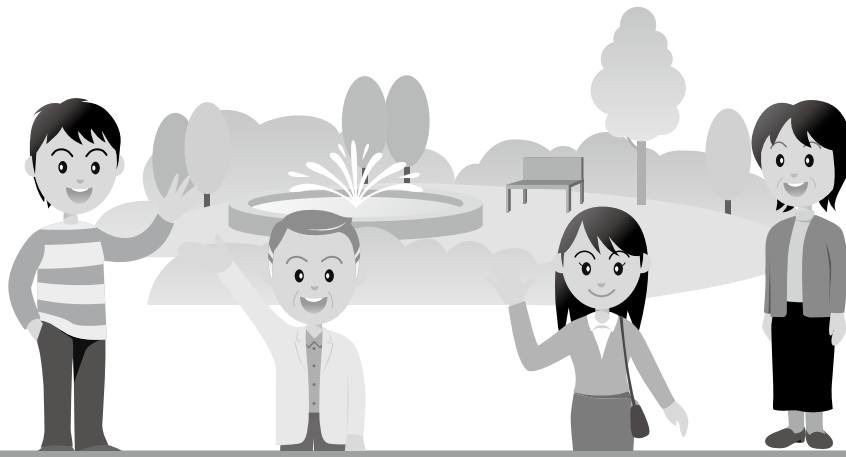
-
-
- ① ネーミングで心をつかむ…………… 13
 - ② 様々な媒体を活用する（ブログ、ホームページなど）…………… 14
 - ③ コンビニやスーパーに募集チラシの掲示をお願いする…………… 15
 - ④ 口コミを行う…………… 15
 - ⑤ チラシのポスティングを行う…………… 15
 - ⑥ 地域ケアプラザ、ボランティアセンター、区民活動支援センター、
地区センター等の協力を得てPRする…………… 17

(4) その気にさせる

-
-
- ① 感謝の気持ちを言葉で伝える…………… 18
 - ② とともに活動したことの意味や成果を言葉で表し、思いを共有する…………… 19

(5) 活躍の場をつくる

-
-
- ① ひとりひとりの得意分野や経験を聞き取り、活動に活かせる場や機会につなげる…………… 21
 - ② スター誕生方式…………… 23
 - ③ 出番を演出する…………… 24
 - ④ 参加しやすい雰囲気づくりを仲間とともに話し合う…………… 25



解決の視点

2 仲間が継続して活動に参加していく…………… P 27 ~ 42

一緒に活動する仲間同士がお互いに力を合わせて、活動を続けていくためのヒントをご紹介します。

(1) やりがい モチベーション

- | | |
|--------------------------------------|----|
| ① 「ありがとう」「助かった」など感謝の気持ちを伝え続ける…………… | 27 |
| ② 活動の意味や成果を言葉で表し、思いを共有する…………… | 28 |
| ③ 信頼して一定の役割を任せる…………… | 29 |
| ④ 学びの場を設ける…………… | 30 |
| ⑤ 地域愛を大切にする…………… | 31 |
| ⑥ 地域の課題に気付き、活動の意義・意味を実感できるようにする…………… | 32 |
| ⑦ 節目ごとに仲間うちで表彰する…………… | 33 |
| ⑧ タウンニュースや新聞などの情報媒体を使って、活動を紹介する…………… | 34 |
| ⑨ 楽しい雰囲気づくりをする…………… | 35 |

(2) 活動の柔軟性

- | | |
|------------------------------------|----|
| ① いきなり頂上を目指さない…………… | 37 |
| ② 活動に完璧さを求めず、みんなでよりよい方法を考えていく…………… | 38 |

(3) リーダーへの支援

- | | |
|---|----|
| ① リーダーを支える仲間をつくる、育てる…………… | 39 |
| ② 地域ケアプラザ、ボランティアセンター、区民活動支援センター、
地区センター等からの相談支援を受ける…………… | 40 |

(4) 世代交代

- | | |
|-----------------|----|
| ① 役割が人をつくる…………… | 41 |
|-----------------|----|

- | | |
|-----------|----|
| 巻末資料…………… | 44 |
|-----------|----|

解決の視点

一緒に活動する
仲間を見つける

そのためには、

解決に向けたヒント！

自ら探す

解決に向けた具体的ヒント



- ① 日常生活で出会う人とのつながりから、新たな仲間を見つける
～PTA活動、カルチャーセンターなどをきっかけに～



効果

直接声かけをした人が仲間になってくれただけでなく、他のメンバーや知り合いにも声かけをしてくれて、予想以上に新たな仲間が増えた（参加者が増え、人材と活動に広がり生まれた）。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

PTA活動やカルチャーセンター等、
日常のつながりから、新たな仲間は見つかります



PTA活動は自分の子どもに直接関係する活動であり、保護者としての責任感が強く、共通点がある中での集まりなので、強いつながりと連帯感が生まれます。こういった日常的なつながりをきっかけとして誘い込むことで、一人だけでなく多数の人を引き込むことができる可能性があります。

このような点を意識しながら、声かけをしてみてもいいでしょうか？

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

放課後の活動（放課後キッズクラブ、はまっ子ふれあいスクール、放課後児童クラブ等）に子どもを通わせている父親からつながる輪

子どもの放課後活動を通じてお父さん同士も繋がっていますが、子どもが参加しなくなると同時に、お父さん同士の繋がりもなくなってしまうことが多いものです。

会社とは違う、上下関係のない繋がりを求めている人も多いはず！と思い、「夏祭りでポップコーンを作って！」とお願いしたところ、お父さんたちが快く手伝ってくれました。

また、こういった関係ができてから、青少年指導員や体育指導委員を担ってくださるお父さんも出てきました。

（「仲手原マザークラブ」より）

同じサークルや団体で活動してきたメンバーから見つける

○同じ育児サークルで一緒に子育てしてきたお母さんや、育児サークルリーダーの経験のあるお母さんに声を掛け、自分の新しい子育て支援の活動に協力してもらいました。

○自分の団体の活動以外に、民生委員としても活動しています。民生委員活動の中で知り合った人が、自分の団体のメンバーに入ってくれることがしばしばあります。会社勤めを終え、「何かやりたい」と感じている人は多いと思います。常にそういった情報に敏感であるよう心がけ、声かけを行っています。

（「仲手原マザークラブ」より）

困っているときこそ、近くの人が助けてくれる

障害児がいる家族のサポート活動を始めようとした当初、サポートをしたいという思いこそあれ、ゼロからのスタート同然でした。当初、社協の存在も、NPOという活動形態も知りませんでした。経営ノウハウも、資金も特別ありませんでした。しかし、ボランティアの仲間など周囲の人々や、地域の社会福祉協議会も家族へのサポートの必要性を感じていたため、活動への協力が得られ、NPOとしての活動は自然な流れで始まっていました。

「困っているからこそ助け合いは生まれる」もので、主婦友達や子どもの学校のPTA仲間など、昔からのなじみの人々が協力してくれました。大家さんや市役所職員、税務署の担当者までも協力してくれました。

（「NPO法人あいあい」より）

解決に向けた具体的ヒント



②地域のキーパーソンを頼りにする

～自治会町内会の会長等の地域のキーパーソンにお願いして、自分たちの活動を地域に紹介し、認知してもらう～



効果

地域のキーパーソンから地域に対して活動を紹介してもらったところ、協力しようという方々が多数集まった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

地域のキーパーソンとは？

地域内の様々な団体の代表をしている人や、地域で活動をする上で中心を担っている人物のことを言います。具体的には、

- 自治会町内会会長・役員
- 地区社会福祉協議会会長・役員
- 民生委員・児童委員
- ボランティア活動団体のリーダー・役員
- NPO 活動団体のリーダー・役員
- PTA 会長・役員

等が挙げられます。



参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

地道にキーパーソンとの関係を築く

自分の活動団体を立ち上げた当時から、地域の連合町内会や、民生委員等には挨拶に行っています。コツコツと交流会を開催したり、町内会の祭りに参加したりして、関係を築いてきました。今では自分たちの活動に理解を示してくださり、活動をする上での協力もいただいています。



活動を立ち上げる際にPRし、理解してもらうよう心がける

地域で異世代交流サロンを立ち上げ、運営する際に、町内会の会合に出席し、地域の皆さんへの理解と協力を得ました。町内会の方々だけではなく、地域で他の福祉関連のNPOの活動をしている方々も応援してくださり、結果、多くの人々の協力を得ることができました。



解決に向けた具体的ヒント



③ **新たな仲間となりうる人をヘッドハンティングする**
 ～研修や講座など同じ目的を持って参加している仲間が集まる機会、地域のイベントへの参加、自治会町内会活動への参加等を通じて～



効果

自分の目で見えて自分から声をかけ、相手にも理解してもらった上でヘッドハンティングをした結果、積極的に参加してくれる方が増えた。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

ヘッドハンティング

他の活動団体やメンバーの中でこの人に来てもらいたい、という人を見つけて声をかけていくことも一つの方法です。その人の性格や特徴をよくわかっているし、自分の活動に参加してもらおう上でも安心です。



研修や講座、地域のイベント、自治会町内会活動など、自分と同じような活動をしている人と出会う機会は少なくないと思います。

普段からそういった人たちと情報交換をすることで、活動にも広がりが出るのではないのでしょうか？

解決の視点

一緒に活動する
仲間を見つける

そのためには、

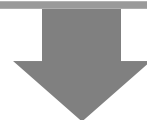
解決に向けたヒント！

声かけを工夫する

解決に向けた具体的ヒント



①活動に参加してくれそうな人の情報をこまめにメモし、その情報をもとに声をかける



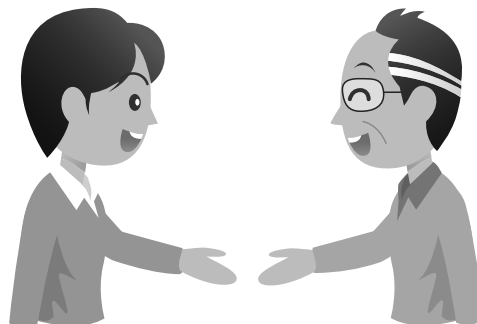
効果

情報を細かくメモしていたことで、その人の希望に合った活動につながられ、継続的な参加をしてくれるようになった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

地域活動に興味を持つ人に関する情報を大切に

どの程度活動に参加したいのか、何に興味があるのか、活動に参加する人の思いは様々です。その人その人に合った役割や活動条件を提供できるよう心がけましょう。



解決に向けた具体的ヒント



②参加者自身の関わり方やメリットがイメージできるように説明をする
～活動に誘う際、参加者自身の関わり方やメリットが具体的にイメージできるように説明し、参加者の不安や疑問を解消する～



効果

活動の条件、コンセプトに賛同してくれる人が集まり、活動への継続的な参加につながった。参加することのメリットを明確にすることで、それならばできることから、と参加してくれる人も多かった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

経験が活かされることを説明する

主婦・お母さんを中心に、子育て支援の活動をしています。新しく参加してもらう主婦の方には、受け手（利用者）のニーズに応えられる働き方がここにはあり、主婦・子育ての経験が、大きく活かされるということをお話ししています。活動時間も、家事の隙間の時間を有効に使いながら活動できることを説明しています。各々に家庭があるからこそ、助け合える、支え合えることを大切にしています。



参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

オリエンテーションの実施

スタッフが新しく入ってくるときには必ずオリエンテーションを行い、団体の理念・基本方針等を丁寧に伝えるようにしています。

まずは自分の地域を知ってもらうところから

「安全・安心街づくり講座」を開催し、自分の住んでいるところを知ってもらうことから始めています。このようなプロジェクト的な仕掛けの中で、自分たちの活動についても情報提供し、理解してもらう機会を作っています。（「さわやか港南」より）

活動の内容が参加者にとって必ずプラスになるということだと伝える

たとえイベントの裏方のような活動でも、楽しかったり、知り合いができたり、達成感があったりと、自分にとって必ずプラスになるからやっています。そのことを自信をもって相手にも伝えることが重要だと思います。

ウェルカムミーティングの実施

当地域へ新規に転居してくる方々に向けて、自治会で会合を開催し、活動について理解してもらうようにしています。また区役所に対しても、転居してきた人が窓口に来たときに、当自治会を紹介してもらえよう働きかけ、認知度を上げるように心がけています。（「湘南桂台自治会」より）

受け入れ体制の工夫

高齢者の介護等の活動をしてはいますが、正月などは時期的に需要はあるのに、どうしても対応できるスタッフが少ないことが頻繁にあります。そこで賃金を倍額にしたところ、対応できるというスタッフが増えたことがありました。参加者のメリットが明確に見えるような、単純な仕掛けが功を奏することもあると思います。

解決に向けた具体的ヒント



③受け手（利用者）も活動の仲間になりうる

～活動の受け手（利用者）も将来の活動の仲間になり得るので、そのような視点で利用者に声かけをしてみる～



効果

活動の受け手（利用者）だった人が、活動に参加するようになってくれた。団体に、活動の受け手（利用者）の視点も加わり、より良い活動ができるようになった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

障害児の一時預かりの活動中での出来事です。自分たちが障害児を預かり、その間その子どもの母親がヘルパーの資格を取得しました。その後その母親に自分たちの活動を手伝ってもらおうと、「自分だけが大変だと思っていたが、世界が広がった」と言って、喜んで手伝ってくれたことがあります。そのような、活動の受け手（利用者）が担い手に変わる場面を今まで何度も見てきました。活動の受け手と担い手は別ではありません。どちらにもなり得るものです。



参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

あらゆる困り事の相談に乗る活動を行っていくうちに、サービスを利用している方がお互いに助け合おうという気持ちになってくださり、スタッフになってくれたり、ボランティアを買って出てくれたりと徐々に活動を支えてくれる人材が増えていきました。生活に密着した活動であることがポイントではないかと思います。（「さわやか港南」より）

認可外保育施設を運営しています。施設の利用者であったお母さんが、その後子どもが大きくなり、今度は担い手として参加してくれます。若い世代が活動に加わるきっかけにもなっています。また、当法人のもう一つの事業である高齢者の介護支援をきっかけに、その後支援する側になったスタッフも多いです。



解決の視点

一緒に活動する
仲間を見つける

そのためには、

解決に向けたヒント！

効果的にPRする

解決に向けた具体的ヒント



①ネーミングで心をつかむ

～活動団体の名称を、親しみやすく、何をしている団体なのかわかるように工夫する～



効果

以前の名称では反応が薄かったが、名称を工夫したところ、何をやっている団体なのかと興味を抱いてくれる人が多くなり、活動に参加してもらえるきっかけになった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

『老人クラブ』→『シニアクラブ』等、活動名称を変更して、興味を喚起させる工夫をしています。

(「湘南桂台自治会」より)

私たちの団体は、『マザークラブ』と名乗ってはいませんが、ボランティアで毎日来てくれている男性もいます。男性が増えてきており、非常にいきいきと活動し

ています。団体の名称については検討の余地があるかもしれません。(「仲手原マザークラブ」より)



解決に向けた具体的ヒント



② 様々な媒体を活用する（ブログ、ホームページなど）



効果

今まで地域との関わりが薄かった方、接点がなかった方からの反応があり、新たな仲間が見つかった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

若い世代の参加

ブログやホームページで活動の様子を見て、ボランティアを名乗り出てくれる学生がいました。既存の地域内の広報媒体だけではPRしきれない世代については、こういった方法も有効だと思います。



解決に向けた具体的ヒント



③ コンビニやスーパーに募集チラシの掲示をお願いする



効果

様々な年齢層の人々からの問い合わせがあった。

解決に向けた具体的ヒント



④ 口コミを行う



効果

話を聞いた相手が知人ということで、安心して参加してくれる人が多かった。

解決に向けた具体的ヒント



⑤ チラシのポスティングを行う



効果

募集だけでなく、活動自体のPRもでき、認知度が上がった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

地道な情報発信、PR

活動内容や活動報告を地域に発信することはとても重要です。すぐに反応が無くても、地域にこういった活動があると認知してもらうこと自体が、活動参加のきっかけになります。解決に向けた具体的ヒントにあるとおり、情報発信の方法は様々です。もしも自分たちの活動に対する地域の反応が薄いと感じるのであれば、今までとは違う情報発信の方法で実践してみてもいいかもしれません。

子育て支援の活動をしていますが、口コミと人脈は活動のPRをする上で大きな助けとなります。地域で保育士資格を持つ方や、放課後キッズクラブの経験者など、人とのつながりの中で、新たな人材を見つけることができます。

PR後のフォローも大切に

活動の内容をあまり理解せずにいらっしゃる方も多く、趣旨や理念、活動スタイルを理解してもらうまで時間がかかることもしばしばありました。現在では1～2日程度の活動体験の機会（お見合い期間）をもつようにしています。



解決に向けた具体的ヒント



⑥地域ケアプラザ、ボランティアセンター、区民活動支援センター、地区センター等の協力を得てPRする



効果

地域ケアプラザ等の支援機関から、様々な情報提供や相談支援が受けられ、活動を希望する方の紹介を受けることにつながった。
また、チラシを見て、興味がある、やってみたいという人が現れた。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

地域の活動を支援する機関を活用する

地域ケアプラザ、ボランティアセンター、区民活動支援センター、地区センター等、地域には地域活動を支援する機関が数多く存在します。何か活動をしたいと考えて訪れる人も少なくありません。そういった支援機関を活用し、また協力を得て活動のPRをすることで、新しい担い手が現れる可能性は高くなります。まずは、ご自分の地域の地域ケアプラザ等に相談してみてもいいでしょうか。きっと活動の手助けになると思います。

(※巻末資料 46 ページ参照)

地域ケアプラザのコーディネーターが持つ人脈や、地域ケアプラザのボランティア交流会などを通して、地域のいろいろな活動者となつながら、活動を発展させる機会にもなりうると思います。

解決の視点

一緒に活動する
仲間を見つける

そのためには、

解決に向けたヒント！

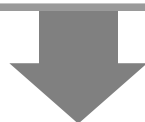
その気にさせる

解決に向けた具体的ヒント



①感謝の気持ちを言葉で伝える

～「ありがとう」「助かった」など感謝の気持ちを伝える～



効果

あまり参加に積極的ではなかった方でも、感謝を言葉で伝えるととても嬉しそうにしてくれた。活動に貢献できた、喜んでもらえた、と実感してもらえた。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

感謝の気持ちを伝える

日常の活動の中で、ひとつひとつお互いに感謝の気持ちを伝えあったり、スタッフミーティングにおいて、それぞれの活動を振り返りながら、気持ちを分かち合うことを大切にしています。



解決に向けた具体的ヒント



②ともに活動したことの意味や成果を言葉で表し、思いを共有する



効果

自分が参加したことでの成果ややりがいを実感することにつながった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

活動後の振り返りを大切に

成果ややりがいを実感できるかどうかは、活動を継続する上でとても重要なことです。感謝の気持ちを直接伝えたり、活動の振り返りを一緒にすることで、やりがいを実感できる場面を多くつくるよう心がけてはいかがですか。



参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

活動のやりがい

障害児がいる家族のサポート活動をしています。活動の受け手（利用者）のニーズがあり、それに対応できているという実感が持てるからこの活動を続けられていると思います。

〔NPO法人 あいあい〕より



必ず面接やオリエンテーションを行う

知り合いの紹介やある程度関係のある人でも、馴れ合いのお手伝いではなく、必ず面接やオリエンテーションを1時間程度行い、じっくりと向かい合うことで意識を高めてもらうよう努めています。

ボランティアスタッフの交流研修会を1日プログラムで実施

自分たちの活動についての報告やワークショップ等を通して、各々の日常の活動以外の様子を知ったり、意義を再確認したり、他者の考えを聞いたりする中で、モチベーションの維持や向上が図られています。



解決の視点

一緒に活動する
仲間を見つける

そのためには、

解決に向けたヒント！

活躍の場をつくる

解決に向けた具体的ヒント



①ひとりひとりの得意分野や経験を聞き取り、活動に活かせる場や機会につなげる



効果

適材適所での活動参加に結び付けることにより、継続した参加につながり、また活動参加を通じて、新たな役割を見出すきっかけにもつながった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

特技や経験を活かしてもらおう

活動に参加する人の特技や、人生で培ってきた技術や知識は活動団体にとって重要な財産です。ご自分の団体の中でこのような活動者の財産を活かしてもらえるような場がないか考え、活動者にとっても、ご自分の団体にとっても相乗効果となるような体制づくりを心がけてはいかがでしょうか。



参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

スキルとマネジメントを分ける

団体の運営について、スキルとマネジメントを分離するシステムを取っています。組織の役員等執行部が団体運営等のマネジメントを重点的に行うことで、参加者が自分の専門的スキルをいかんなく発揮できるように環境整備を行っています。

(「湘南桂台自治会」より)

あなたの特技は？

活動に参加してもらう際、はじめに得意な分野や特技を聞き、また、やってみたい活動も聞いてみるようにしています。スタッフそれぞれの得意な部分を活かせるような活動の場をつくり、役割をお願いしています。役割をお願いしたからといって、任せきりにするのではなく、必要に応じて相談や調整にも協力するよう心がけています。



解決に向けた具体的ヒント



②スター誕生方式

～まず参加者がかっこう良く見える場面（スターとなれる場面）での協力を
をお願いします～



効果

参加した方の子どもが、親の活躍する場を見て喜んでくれて、参加者自身も嬉しそうだった。そういったことがきっかけとなって、活動に関わろうと思う方も出てきた。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

スター誕生方式

仕事をしている子育て中の年代の人々にとって、最初から活動全てに参加をお願いするというのは負担が大きいものです。例えばもちつき大会のもちつきの場面とか、子どもにとって親がかっこう良く見える場面だけをまずお願いしてみるのはいかがでしょうか。子どもが喜ぶのであれば、と参加してくれる親は多いと思います。



解決に向けた具体的ヒント



③出番を演出する

～お祭りやイベント等で男性や若い世代の力を活かせる場をつくる～



効果

男性や若い世代の方が適している活動もあり、責任感とリーダーシップを持って参加してくれた。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

男性の参加

一般的に、地域活動に男性を引き込むことについては難しいと思われがちです。しかし、明確に役割や責任を持っていただいた上で協力をお願いすると、リーダーシップをとって積極的に関わってくれる男性も多いようです。依頼の仕方によっては、大きな力になるはずです。

私は、男性に活動参加を呼び掛けるときは、最初は「ちょっとボランティアをする」ぐらいの感覚で構わないと思っています。気軽に入ったり辞めたりできるくらいが参加者にとっても良いのだと感じています。（「仲手原マザークラブ」より）

若い世代の参加

交流会、イベント等で役割をもってもらい、高校生や大学生でもある程度責任をもって活動に取り組めるようにしています（例：広報担当、対外的な交渉役、備品担当、ちらしづくりなど）。準備から振り返りまでしっかり行ってこそ満足感や達成感、手ごたえが感じられ、それを一緒に共有することが重要です。責任があるからこそ考え、工夫するものです。

解決に向けた具体的ヒント



④参加しやすい雰囲気づくりを仲間とともに話し合う



効果

活動の仲間一人一人が活動団体の雰囲気や、新しい仲間の受入体制について考えてくれて、実際に団体内に良い雰囲気が広がった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

参加しやすい雰囲気づくりとは？

具体的な活動時間のシフトづくりや、意見を言
いやすい雰囲気づくりなど、参加者が活動をする
上で快適かどうかのポイントが数多くあります。
そういったポイントは何か、ということを整理し、
改善に向けてご自分の団体でどのような工夫がで
きるか考えてみてはいかがでしょうか。



参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

参加可能な日時を調整（考慮）する

○活動日として、金曜日が月2回、月曜日が月1回、火曜日が月1回という形で設定しています。病院に通院されている参加者のために、同一曜日にしてしまうと参加できなくなってしまうための配慮です。（「仲手原マザークラブ」より）

○常勤スタッフも含め、毎月出席できる時間、日を記入し提出してもらい、理事が集約して月々のシフトを決めています。時間単位でどの程度参加が可能か、というところまで細かく記入してもらっているのが、スタッフにとって無理が少ない。これをずっと続けることが、活動が続いている要因のように思います。



あくまで参加者の意向を尊重する

○多数決は反対派の意見を押し切ってしまう。当団体では、何かを決めるときはじっくりと話し合い、全員一致で決めるように心がけています。（「泉区下和泉住宅自治会」より）

○活動は自主性・自発性が重要です。メンバー同士が「お互い様」。これが長く続く秘訣です！

（「仲手原マザークラブ」より）

解決の視点

仲間が継続して活動に参加していく

そのためには、

解決に向けたヒント！

やりがいモチベーション



解決に向けた具体的ヒント

- ① 「ありがとう」「助かった」など感謝の気持ちを伝え続ける

効果

感謝の気持ちを伝え続けることによって、自分の参加が必要だと実感してくれる人が多く、継続して活動をしていくモチベーションにつながった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

感謝の気持ちを積極的に伝える

やりがいや、自分が参加したことでの影響が実感できるから活動を続けているという人は少なくないようです。タイミングを見計らいながら、その人が活動に参加していることの意味を実感できるよう心がけることが大切です。



○ちょっとしたことでも「ありがとう」と感謝の気持ちを口に出したり、ねぎらいの言葉をかけることが大切です。（「仲手原マザークラブ」より）

○毎日の活動の中で、感謝を伝えあい、スタッフミーティングにおいても互いに伝えあうことを大切にしています。



解決に向けた具体的ヒント

②活動の意味や成果を言葉で表し、思いを共有する



効果

活動を通して感じたことを発信する場があることにより、それが息抜きや次回参加へのきっかけにつながり、継続的に参加をしてくれるようになった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

活動の愚痴にも耳を傾ける

活動先での愚痴を聞くことも必要です。丁寧に傾聴することで、また次も活動に参加してくれることが多くあります。

また、活動先の環境整備の必要性に気付くきっかけになることもあります。当方の会長から事前に活動先に話をして調整するなど、活動しやすい環境づくりを進めることも大切です。

(「仲手原マザークラブ」より)

活動者同士の情報交換を大切に

活動者同士の情報交換を、とにかく頻繁に行っています。

活動者はヘルパー部門、ケアマネジャー部門、デイサービス部門等いくつかの部門に分かれて活動をしており、各部門ごとに部門会を開き、情報交換を行っています。さらに、月1回全体会を行い、部門を越えた情報交換を行っています。

また、何人かで1人の利用者を担当しており、随時情報交換をして利用者の状態を把握しているので、何かあっても他の活動者に相談しやすい、という安心感があります。活動者が一人で悩みを抱え込まないようにしています。



解決に向けた具体的ヒント

③信頼して一定の役割を任せる



効果

活動者が、自分自身への周囲からの信頼感ややりがいを実感できたことで、活動継続のモチベーションが高まった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

信頼して活動者に合った役割を任せる

○広報担当や、活動者のシフトの担当等、各活動者に担当を任せています。各々が、各々のやることに口を出さないようにしています。その人が来たときに、その人にしかできないことをしてもらうことが重要です。定例会では、各担当から仕事の状況を報告してもらっています。

信頼して任せることで、一人一人が責任をもって主体的に活動してもらえるようになります。

(「NPO法人あいあい」より)

○役割を担ってもらうことにより、活動への主体性が高まり、責任感をもって活動ができるようになります。また、活動の全体が見えてくるきっかけにもなります。



解決に向けた具体的ヒント

④ 学びの場を設ける



効果

活動者が、学習したことを活かす場が欲しくなり、活動や活動内容の検討にも積極的になってくれた。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

活動しながら学び、皆で共有する

定期的な外部の施設研修や、勉強会への参加、レポート作成と報告会を行い、全員で共有しています。学びの場の情報にアンテナをはり、活動者に知らせることも大事です。学んだことを自分たちの活動に活かしたり、活動の改善につなげています。

資格を取得して強みをもつ

平成13年に活動を法人化した後、活動者がすぐにケアマネジャーの資格を取得しました。それまでは、利用者に寄り添い、状況をよく把握しているのは自分たちなのに、利用者の担当のケアマネジャーの言ったとおりにしかできない状況でした。利用者の状況と意思を確認しながら、自分たちでケアプランを立てられるのも、強みの一つになりました。



解決に向けた具体的ヒント

- ⑤ **地域愛を大切にする**
～活動者の地域に対する思いを尊重する～



効果

地域をこうしたい、という思いをよく話してくれるようになり、その思いが活動の継続につながった。





解決に向けた具体的ヒント

⑥地域の課題に気付き、活動の意義・意味を実感できるようにする
(アンケート、まち歩きなど)



効果

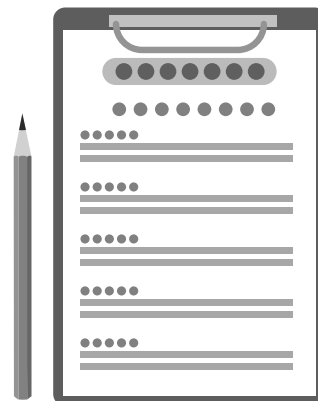
活動の意義・意味を認識することでやりがいを感じ、継続的な活動参加につながった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

アンケートやヒアリングを活用する

利用者を対象としたアンケートやヒアリングを行い、その結果を活動者の皆で共有しています。

アンケートやヒアリングの結果を受けて皆で話し合う中で、活動の意義ややりがいを感じることができ、モチベーションの維持と課題の発見につながっています。





解決に向けた具体的ヒント

⑦ 節目ごとに仲間うちで表彰する



効果

自分のこれまでの努力や成果が実感できることで、楽しさや達成感が生まれた。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

活動参加〇〇周年表彰

活動者が活動に参加して何か月、何年等の節目に、表彰を行っています。

普段どういったことを頑張っているかなどを褒めたたえ、しっかり見ていることをアピールするようにしています。

普段からその人を見ていないとできないことであり、活動者にとっても大きな励みになっています。





解決に向けた具体的ヒント

⑧タウンニュースや新聞などの情報媒体を使って、活動を紹介する



効果

活動の成果や自分の努力を地域に認めてもらえることで、達成感や責任感が生まれた。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

活動の成果が見えるようにする

○自分たちが取り組んでいる活動が具体的な紙面などで表される喜びは大きいものです。それらを見ることで、活動に参加する楽しみが増え、励みにもつながります。

また、多くの人に活動の魅力が伝わり、活動の活性化にもつながるでしょう。

タウンニュースや新聞などに掲載してもらえるよう、適宜こちらから働きかけることが有効です。

○ブログやおたよりの発行によって、活動を目に見える形で表現しています。



解決に向けた具体的ヒント

⑨ 楽しい雰囲気づくりをする



効果

活動者同士が協力しながら継続して活動に参加していくことにつながった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

団体の雰囲気づくり

○否定的な意見ばかりが出るような雰囲気では、活動者の自主性や継続性は育ちません。活動者の人格や意見を尊重し、積極的に楽しみながらできる雰囲気づくりが大切です。お互いの思いを共有し、何でも言える信頼関係をつくることが重要です。

○受け手（利用者）からの言葉や、笑顔、元気になった姿が一番のモチベーションとなっています。そのことを皆で共有しています。



解決の視点

仲間が継続して
活動に参加していく

そのためには、

解決に向けたヒント！

活動の柔軟性



解決に向けた具体的ヒント

①いきなり頂上を目指さない

～活動内容を固定化せず、自由さや柔軟性をもたせる～

効果

活動者の精神的負担が少なく、活動者が気楽に継続的に参加できるようになった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

ゆるやかな活動のスタンスを示す

○活動（ボランティア）は義務ではなく、「できることをできる時にやればよい」というゆるやかなスタンスをもっていきます。特にこれといった規則はありません。義務感を持たないようにするためにも、活動者の出欠はとっていません。活動（ボランティア）を義務化すると負担になり長続きしないことがあります。

（「脳イキキ教室サポーターの会」より）

○活動に入る時間帯を決める際、個人の事情も尊重できるよう、活動者の意向を確認し、できる限り考慮しています。

活動者にとってのハードルを高くしない

活動に興味のある方には、活動を見てもらい、そのうち参加につながる事が多くあります。参加してみようと考えている方の気持ちを柔軟に受け止めて、つなげるという過程をゆるやかにやっていくことがポイントです。参加することへのハードルが高くないようにしています。



解決に向けた具体的ヒント

②活動に完璧さを求めず、みんなでよりよい方法を考えていく



効果

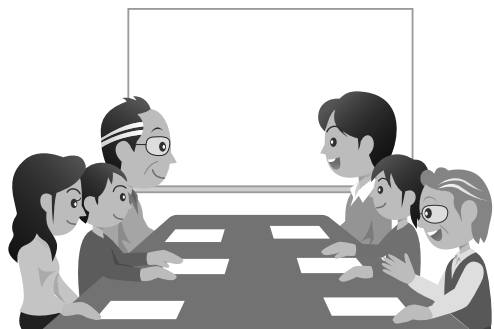
活動者同士で意思疎通もでき、合意形成をしながらより継続性の高い活動実施につながった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

活動者同士のコミュニケーション

○定例会等、メンバー全体で報告や意思疎通を図る場を設けることは非常に重要です。メンバーと話しながら、よりよい形に活動形態を変えていくことも、活動を継続する上では必要です。

○毎日のミーティング、月に1度のスタッフミーティングを大切にしています。ミーティングの内容は記録を取り、参加できなかった人にも必ず伝えて共有しています。



解決の視点

仲間が継続して活動に参加していく

そのためには、

解決に向けたヒント！

リーダーへの支援



解決に向けた具体的ヒント

①リーダーを支える仲間をつくる、育てる

効果

リーダー自身の負担が減り、活動者も「リーダーを支える役割」を認識し、それによって次のリーダー育成にもつながった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

リーダーを支える仲間をつくる

活動の規模が大きくなってくると、リーダー1人での管理が難しい場合があります。管理面において、大きな役割を安心して任せられる仲間を、日頃から意識して育てていくことも重要です。

○自治会に基づいている他組織の活動者が下支えをしてくれています。何か新しいことをやろうというときに、リーダーはもちろん必要ですが、そのリーダーを支えてくれる人々がいることが何より大きいのです。

(「泉区下和泉住宅自治会」より)



解決に向けた具体的ヒント

②地域ケアプラザ、ボランティアセンター、区民活動支援センター、地区センター等からの相談支援を受ける



効果

活動者の活動継続に向けた様々な相談支援が受けられた（組織の管理面等）。



解決の視点

仲間が継続して活動に参加していく

そのためには、

解決に向けたヒント！

世代交代



解決に向けた具体的ヒント

① 役割が人をつくる

～任期等を決め、リーダーや担い手の世代交代をルール化する～



効果

ルール化により、リーダーは、次のリーダーの育成も視野に入れながら活動を進めるとともに、各々の担い手は、自然な流れで世代交代を意識して、新たな担い手の発掘と育成に取り組むことにつながった。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

世代交代をルール化する

活動に年齢制限を設けている団体もあります。思い切った方法ではありますが、交代のルールが明確であることは、継続して担い手が参加する1つの方法かもしれません。

参考となる ～具体的な行動・エピソード等～

普段の活動を通じて引き継ぐ

活動者の中で、コーディネーター（活動者と利用者のマッチングをする人）の負担が大きくなっています。コーディネーターの後継者は、日頃の活動から何人か見つけています。特別な研修などはなく、一緒に活動しながら受け手（利用者）ともふれあう中で、コーディネーターとしての動き方を肌で感じて学んでもらっています。

（「さわやか港南」より）

任期制と”天下り”の活用

自治会長は2年に1回交代するようにしています（連続2期まで就任可能）。

また、自治会役員を務めた人は、その後、関係団体の委員を引き受けてもらうなど、地域の活動に参加してもらうようにしています。私たちの地域では、これを”天下り”と呼んでいます。これには、活動目的やノウハウ等についても継承されていくというメリットがあります。

会長職は自治会を南北で分けて、交互に選出して偏りが出ないように配慮しています。

（「湘南桂台自治会」より）



巻末資料

- (1) 横浜市社会福祉協議会 助成金情報 P 45
- (2) 地域での活動を支援する機関 P 46
- (3) ヒント集作成までの検討経過 P 47
- (4) ヒアリング先一覧、参考資料 P 49

横浜市社会福祉協議会 助成金情報

横浜市社会福祉協議会で実施している「よこはま ふれあい助成金」は、第4次横浜市地域福祉活動計画（平成22～25年度）に沿った市民の皆さんの新たな活動を支援していく助成金です。

横浜市地域福祉活動計画は、「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなでつくりだす」ことを目指し、市民並びに福祉保健の関係団体や事業者等が主体的に地域で進めていく取組み・活動についてまとめたものです。

「よこはま ふれあい助成金」は地域福祉活動計画の3つの重点計画の内容に合致する対象事業に対して、審査を経て助成されます。

■市社協受付分

助成区分	主な対象事業	助成年限	助成条件
横浜市社協の助成金	重点計画1 「つながり」を大切に 地域をつくる	1年 (★)	調査研究事業は、研究結果を公表・発表すること
	重点計画2 情報が、支援が届くしくみをつくる		当事者団体関係者以外への啓発であること
	重点計画3 一人ひとりの参加で市民活動の輪を広げる		情報が届いたかどうかの検証について計画されていること
			年度中に開設準備を行い、翌年度の4月1日までに開所すること
	複数の機関・団体による協働事業		同一法人・同一団体内による協働でないこと

★一度助成を受けた事業でも、平成25年度まで継続申請することが可能です。

助成内容を変更することがありますので、必ず下記窓口でご確認下さい

詳しくは横浜市ボランティアセンターまでお問い合わせ下さい

電話201-8620

FAX 201-1620

E-mail: yvc@yokohamashakyo.jp

URL: <http://www.yokohamashakyo.jp/yvc>

■各区の区社協の助成金

助成区分	主な対象事業	助成年限	助成条件
各区社協の助成金	市民参加による地域福祉推進事業	助成年限なし	各区社会福祉協議会にて、受付・審査・決定を行います。詳細は各区社協へお問い合わせ下さい。 お申し込みは事業の中心・もしくは事業所が所在する区の社協になります。
	障害当事者活動		
	福祉のまちづくり活動		

詳しくは各区の区社協ボランティアセンターまでお問い合わせ下さい

URL: <http://www.yokohamashakyo.jp/link/s-9-2.html>

地域での活動を支援する機関

地域には、市民のみなさまの地域活動を支援する、さまざまな相談支援機関があります。これから何か活動を始めようと思っている方、現在の活動について困りごとがある方など、一度相談をしてみてもいかがでしょうか。

今まで知り得なかった情報、仲間を増やしていくためのヒントや、違った視点での助言など、今後の活動に役立つ情報や支援を受けることができます。

横浜市ボランティアセンター

ボランティアセンターでは、ボランティアを必要としている人やボランティア活動をしたい人をつなげたり、ボランティア情報の提供や相談支援等を行っています。

また、各区にあるボランティアセンター等とも連携して、ご相談に対応しています。

〒 231-8482

神奈川県横浜市中区桜木町 1-1

(横浜市健康福祉総合センター 8F)

TEL : (045)201-8620 FAX : (045)201-1620

URL : <http://www.yokohamashakyo.jp/yvc/top.html>

地域ケアプラザ（横浜市内に 123 か所）（平成 23 年 5 月時点）

身近な地域の福祉・保健活動の拠点として、施設をご利用いただけます。

また、子育てサロンや健康体操教室など、地域のみなさんが参加できる事業を行っています。

さらに、ボランティアや地域の活動の情報や相談支援等を行っています。

各区の地域ケアプラザの所在地、連絡先等については、

URL : <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/shisetsu-joho/careplaza.html>

横浜市市民活動支援センター

NPO やボランティア団体などによる、公益的な市民活動を総合的に支援している拠点です。

さまざまな分野の市民活動団体や、ボランティアなど、すでに活動している人たちや、これから活動しようとしている人たちを応援しています。

また、各区にある市民活動支援センター等とも連携して、ご相談に対応しています。

〒 231-0062

横浜市中区桜木町 1-1-56

みなとみらい 21 クリーンセンタービル 4・5 階

TEL : 045-223-2666 FAX : 045-223-2888

URL : <https://opencity.jp/yokohama/>

ヒント集作成までの検討経過

<検討内容>

地域では、自治会町内会、ボランティア、NPO団体等によってさまざまな活動が実施されていますが、活動を支える担い手の不足、後継者の育成といったものが、活動されている方の共通の悩みとしてあげられます。

そこで、幅広い市民が地域福祉保健活動に参加することができるよう、新たな人材発掘、育成するためのヒントを検討しました。

<検討の位置付け>

検討にあたっては、第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会設置要綱第8条に基づき、分科会を設置し検討を進めました。

項目	時期	内容
第1回分科会	H22年8月5日	・分科会の目的、趣旨、今後の進め方の説明
		・幅広い人材を発掘・育成するための事例収集の進め方等検討
事例収集 (ヒアリング等)	H22年8月～10月	・幅広い人材発掘・育成するための事例収集のため、先駆的事例を実践している方、団体関係者へのヒアリング、既存の冊子等からの事例収集等を実施（P47参照）
中間報告①	H22年11月11日	・第12回第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会
第2回分科会	H22年12月2日	・収集した事例の整理、検証
		・「幅広い人材を発掘・育成するためのヒント（中間案）」検討
意見募集	H22年12月～ H23年1月	・中間案に対する意見募集 (意見募集先：区事業企画担当、区社協、地域ケアプラザ、分科会委員)
第3回分科会	H23年3月4日	・「ヒント集 冊子 掲載内容一覧」の内容、掲載様式の検討
中間報告②	H23年3月29日	・第13回第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会
最終報告	H23年6月13日	・第14回第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会

<開催時期及び開催回数等>

<検討結果の活用方法>

ヒント集を、活動者の悩みの解決に向けた重要なツールとして、継続して活用します。

※活動者に情報提供し活動の参考にしてもらう、活動者を支援する立場の区ボランティアセンター、区民活動支援センター、地域ケアプラザ等において、相談支援を行う際に活用してもらうなど。

<分科会委員名簿> (敬称略、五十音順)

委員名	所属	分野
井上 禮子	横浜市社会福祉協議会 福祉ボランティア・市民活動部会 部会長	ボランティア関係者
黒津 貴聖	市民委員	市民委員
齊藤 保	(株) イータウン 代表取締役 港南台タウンカフェ	コミュニティビジネス関係者
柴田 眞紀	中区本牧原地域ケアプラザ 地域交流コーディネーター	ケアプラザコーディネーター
白岩 正明	旭区若葉台地区社会福祉協議会 会長	地区社会福祉協議会関係者
竹谷 康生	栄区桂山クラブ 代表	老人会関係者 (まちづくり関係)
中野 しずよ	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま 理事長	NPO・市民活動団体等中間支援組織
名和田 是彦 *分科会長	法政大学法学部 教授	学識経験者 (コミュニティ)
平賀 裕	市民委員	市民委員
山田 美智子	よこはま一万人子育てフォーラム	子育て分野関係者
吉弘 初枝	ほどがや市民活動センター アワーズ センター長	生涯学習、子育て分野関係者

ヒアリング先一覧

ヒアリング対象（団体）	活動拠点区	活動内容
仲手原マザークラブ	港北区	町内会婦人部としての自治会活動で、港北区仲手原在住者を対象に、デイサービスや高齢者昼食会、高齢者施設でのお手伝い等の活動をしています。
湘南桂台自治会	栄区	自治会活動を中心に、老人クラブの活動や生活の様々な場面でのお手伝いの活動など、分野ごとに幅広い活動をしています。自治会としての活動は、広報誌桂山の発行、自治会ニュースの発行、行政機関からの配布物などを各戸配布、防災訓練、一斉清掃、防犯パトロール等様々です。
NPO法人 あいあい	港北区	主に障害や病気のある子どもの兄弟を一時的に預かる、託児室「あいあい」を運営しています。 他にも、集団保育、親子学級、公園遊び等地域での交流や普及啓発等も行っていきます。
泉区下和泉住宅自治会	泉区	自治会活動から始まり、現在はNPO法人を立ち上げ、高齢者の外出支援活動や、自主運営によるコミュニティバスの運営等、送迎に関する活動を行っています。他にも、日常の困りごとをボランティア会員で支援する活動等も行っていきます。
家庭教育学級ばんぶきん運営委員会（NPO法人 横浜市民アクト）	磯子区	「子どもと一緒に親育ち」をテーマに、地域の子育て中の母親が、仲間づくりと、学び合いながら主体的な社会参加（家庭から地域に目を向けて）をする事により、地域の子育てを自分たちも担っていくことを目的に実施しています。母親たちが運営委員になり、主に子育てに関する地域活動のプログラムを実施しています。
さわやか港南	港南区	港南区区民活動支援センターのランチ（サブ拠点）として、市民活動に関する情報チラシの配架、講座・イベントの企画・実施をしています。また、家事援助などの高齢者向け在宅支援、保育園・幼稚園の送迎や託児などの子育て支援などの有償サービスや、青年学級、寺子屋、障害者や高齢者などの居場所づくりにも取り組んでいます。
「脳イキイキ教室」サポーターの会	中区	高齢者向けの活動として、簡単な「読み書き」「計算」を毎日15分程度することにより、脳の働きを活性化させるための教室を開いています。学習以外の時間では、サポーターや参加者同士の交流にも取り組んでいます。
NPO法人 5つのパン	都筑区	精神障害者の方々のホームヘルプ事業に取り組んでいます。また、地域活動支援センター事業として、絵本を読めるカフェと手作り製本や布小物をつくるワークショップや地域の方々の商品を販売するショップを運営しています。

参考資料（既存の冊子等）

既存の冊子（事例集等）	発行元
国民生活白書	内閣府
ふれあいの居場所ーガイドブッケー	公益財団法人さわやか福祉財団
新しい風をつくる地縁型組織とテーマ型組織の協働ヒント集	市民セクターよこはま・横浜市健康福祉局福祉保健課
サロン活動ヒント集	南区社会福祉協議会
人がつながり地域が活きる 横浜市地域ケアプラザ地域活動交流事例集	市民セクターよこはま・横浜市健康福祉局福祉保健課

人が集まる！活動が続く！地域活動のヒント集

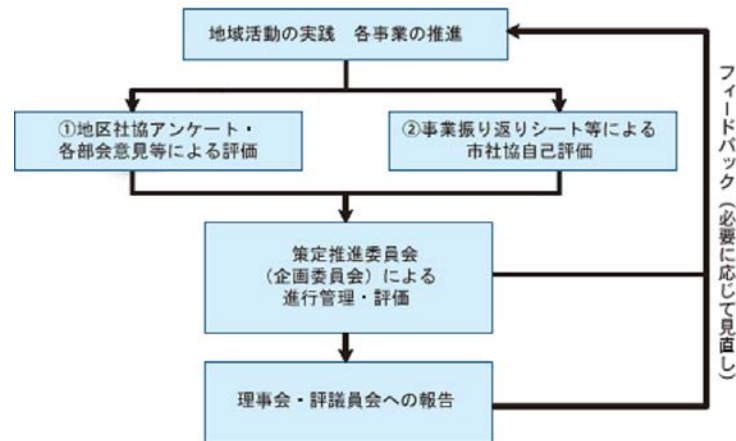
平成 23 年 6 月発行

発行：第 2 期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会
横浜市健康福祉局地域福祉保健部福祉保健課
社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会

連絡先：横浜市健康福祉局地域福祉保健部福祉保健課
〒 231-0017 横浜市中区港町 1 - 1
TEL : 045-671-3567 FAX : 045-664-3622
横浜市社会福祉協議会地域活動部地域福祉課
〒 231-8482 横浜市中区桜木町 1 - 1
TEL : 045-201-8616 FAX : 045-201-1620

平成 22 年度 第 4 次 横浜市地域福祉活動計画 進行管理・評価報告について
 地区社協アンケート・私たちにできること結果／地域福祉活動計画評価

<進行管理・評価>



■地区社協アンケート（平成 22 年 1 月 26 日に実施された地区社協研修で調査を実施 回答数 412）

<p>問 1 【地域のつながりについて】 地区社協やその他の地域福祉活動においてつながりづくりの活動（例えば地域のサロンやミニデイサービス等）について、昨年度と比べて参加者は増えていますか</p>	<table border="1"> <tbody> <tr><td>増えている</td><td>49 (12%)</td></tr> <tr><td>やや増えている</td><td>177 (43%)</td></tr> <tr><td>変わらない</td><td>143 (35%)</td></tr> <tr><td>やや減っている</td><td>22 (5%)</td></tr> <tr><td>減っている</td><td>6 (1%)</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>15 (4%)</td></tr> </tbody> </table>	増えている	49 (12%)	やや増えている	177 (43%)	変わらない	143 (35%)	やや減っている	22 (5%)	減っている	6 (1%)	無回答	15 (4%)
増えている	49 (12%)												
やや増えている	177 (43%)												
変わらない	143 (35%)												
やや減っている	22 (5%)												
減っている	6 (1%)												
無回答	15 (4%)												
<p>問 2 【身近な地域における見守りについて】 地区社協やその他の地域福祉活動において、一人暮らし高齢者の見守り活動や配食・会食サービスを通じた見守り活動・子育てサロンを通じた育児世帯の見守り活動など、お住まいの地域において日々の住民相互の見守り体制は機能していますか。</p>	<table border="1"> <tbody> <tr><td>機能している</td><td>54 (13%)</td></tr> <tr><td>やや機能している</td><td>191 (46%)</td></tr> <tr><td>ふつう</td><td>114 (28%)</td></tr> <tr><td>あまり機能していない</td><td>47 (11%)</td></tr> <tr><td>機能していない</td><td>2 (1%)</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>4 (1%)</td></tr> </tbody> </table>	機能している	54 (13%)	やや機能している	191 (46%)	ふつう	114 (28%)	あまり機能していない	47 (11%)	機能していない	2 (1%)	無回答	4 (1%)
機能している	54 (13%)												
やや機能している	191 (46%)												
ふつう	114 (28%)												
あまり機能していない	47 (11%)												
機能していない	2 (1%)												
無回答	4 (1%)												
<p>問 3 【地域人材の育成について】 平成 22 年度（4 月から 11 月）において、地区社協やその他の地域福祉活動を進めていく中で「担い手となる新しい仲間や人材」は増えていますか。</p>	<table border="1"> <tbody> <tr><td>増えている</td><td>7 (2%)</td></tr> <tr><td>やや増えている</td><td>92 (22%)</td></tr> <tr><td>変わらない</td><td>239 (58%)</td></tr> <tr><td>やや減っている</td><td>62 (15%)</td></tr> <tr><td>減っている</td><td>10 (2%)</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>2 (1%)</td></tr> </tbody> </table>	増えている	7 (2%)	やや増えている	92 (22%)	変わらない	239 (58%)	やや減っている	62 (15%)	減っている	10 (2%)	無回答	2 (1%)
増えている	7 (2%)												
やや増えている	92 (22%)												
変わらない	239 (58%)												
やや減っている	62 (15%)												
減っている	10 (2%)												
無回答	2 (1%)												

■よこはまふれあい助成金を通じた「私たちにできること」の募集

よこはまふれあい助成金（市社協受付分）の助成区分を地域福祉活動計画の 3 本柱に沿った内容に変更いたしました。（平成 23 年度助成区分より）助成が決定した団体の事業は、地域福祉活動計画の趣旨である「私たちにできること」を実現する事業として位置づけました。

■私たちにできること

活動計画の中に、市民一人ひとりが自分にできる地域活動を考えていただき、冊子に記入できるよう「私たちにできること」の空欄を設けています。活動計画の推進にあたり、計画の PR を行うと共に、市民の主体的な参画による活動の拡充を目的として、「私たちにできること」を募集しました。

募集期間：平成 22 年 1 月 2 月～平成 23 年 2 月

募集件数：119 件（地区社協アンケートでの募集も含む）

■部会アンケートの実施

地域福祉活動計画の推進にあたり、地域福祉推進の中心的役割を担う各部会員から地域の現状を伺うことで、活動計画の評価・検証の一指標とすることを目的として、「部会アンケート」を実施しました。

- 実施時期 平成23年3月～4月、各部会及び役員会等の会合時にアンケートを依頼
- 実施内容 3つの重点計画の柱に沿って、アンケートに回答を依頼
- 回答数 38件

■地域福祉活動計画評価

評価		評価分布（全38項目）
S	目標以上の成果が得られた	0事業（0%）
A	おおむね目標通りの成果が得られた	16事業（42%）
B	やや目標を下回った	21事業（55%）
C	目標を下回った・取り組めなかった	1事業（3%）

企画委員会からの意見

- ①1年を通じてB評価（やや目標を下回った）の事業が55%を占めた。今後は関連事業を効果的に行う等、進行管理や情報共有の徹底が必要。
- ②活動計画の評価方法については、事業の進捗状況等を積極的に評価し、わかりやすく事業評価が行われるよう取組んで頂きたい。
- ③3つのリーディング事業は概ね計画通りの事業効果が得られている。今後は区社協やケアプラザ等とより緊密に連携し事業を行うことが必要。
- ④全体的な広報の取組みについては改善が必要。「わたしたちにできること」等の意見を若い世代からも募集できるよう広報の工夫が必要。
- ⑤地区社協アンケート等の結果からは、地域人材の育成が十分でないという結果が出ている為、市民参加を推進する事業に力点を置いて頂きたい。

第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会委員名簿

【任期：平成22年4月～平成24年3月31日】

平成23年6月13日現在
(五十音順 敬称略)

	委員名	所 属	分 野	備 考
1	有賀 美代	(福) 横浜市戸塚区社会福祉協議会 会長	区社会福祉協議会部 会	
2	石塚 淳	横浜市桂台地域ケアプラザ 所長	地域ケアプラザ	
3	大木 幸子	杏林大学保健学部 教授	学識経験者 (保健)	
4	岡田 朋子	田園調布学園大学人間福祉学部 講師	学識経験者 (福祉)	
5	黒津 貴聖	市民公募委員	市民委員	
6	小宮山 滋	横浜市民生委員児童委員協議会 理事	民生委員児童委員協 議会	
7	坂田 信子	横浜市心身障害児者を守る会連盟 事務局長	障害分野関係者	
8	増田 英明	(社) 横浜市医師会 常任理事	医師会	平成23年 6月13日 から委嘱
9	富井 亨	(福) 横浜市社会福祉協議会 地域活動部長	社会福祉協議会	
10	中川 泰雄	あさがお協力隊 代表	高齢分野関係者	
11	長倉 真寿美	大正大学人間学部 准教授	学識経験者 (福祉)	
12	中野 しずよ	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま 理事長	NPO・市民活動団 体等中間支援組織	
13	中村 好美	市民公募委員	市民委員	
14	【副委員長】 名和田 是彦	法政大学法学部 教授	学識経験者 (コミュニティ)	
15	平賀 裕	市民公募委員	市民委員	
16	【委員長】 森本 佳樹	立教大学コミュニティ福祉学部 教授	学識経験者 (福祉)	
17	山田 美智子	よこはま一万人子育てフォーラム	子育て分野関係者	
18	山野上 啓子	特定非営利活動法人 横浜移動サービス協議会 副理事長	NPO関係者	

第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会事務局名簿

平成23年6月13日現在

	氏名	所 属	連絡先
1	徳田 文男	健康福祉局 地域福祉保健部長	045-671-3562
2	深川 敦子	健康福祉局 地域福祉保健部 福祉保健課長	045-671-3994
3	戸矢崎 悦子	健康福祉局 地域福祉保健部 福祉保健課 計画班 担当係長	045-671-3567
4	鳥居 俊明	健康福祉局 地域福祉保健部 福祉保健課 計画班 担当係長	
5	矢島 陽子	健康福祉局 地域福祉保健部 福祉保健課 計画班	
6	山根 明子	健康福祉局 地域福祉保健部 福祉保健課 計画班	
7	佐藤 雄亮	健康福祉局 地域福祉保健部 福祉保健課 計画班	
8	時川 亜希子	健康福祉局 地域福祉保健部 福祉保健課 計画班	
9	小張 弘之	健康福祉局 地域福祉保健部 地域支援課長	045-671-3640
10	横内 仁	健康福祉局 地域福祉保健部 地域支援課 担当係長	045-671-2388
11	水野 哲宏	健康福祉局担当理事（健康安全部医務担当部長（保健医療医務監））	045-671-3649
12	藤沼 純一郎	（福）横浜市社会福祉協議会 事務局長	045-201-2087
13	稲葉 幸保	（福）横浜市社会福祉協議会 経営企画部長	045-201-2132
14	長尾 克也	（福）横浜市社会福祉協議会 経営企画部 企画・IT等担当課長	045-201-2090
15	須田 洋平	（福）横浜市社会福祉協議会 経営企画部 企画・IT等担当	
16	知久 達哉	（福）横浜市社会福祉協議会 地域活動部 地域福祉課長	045-201-8616
17	齋藤 佳代子	（福）横浜市社会福祉協議会 地域活動部 地域福祉課	

地域ケアプラザ協働連携指針（仮）の策定について

1 指針策定の目的

22年度「地域ケアプラザが担うネットワークづくりのあり方検討会」において公的機関の業務指針作成の必要性が提言されました。検討会の提言を受け、ケアプラザ・区社協・区役所のそれぞれの役割分担を認識し、指針として提示し協働で地域を支援していく必要があります。

また、地域ケアプラザに関連する各種指針・マニュアル等についても策定してから数年が過ぎ（例：地域包括支援センター連携・支援指針 [H18.4 策定]）改訂の時期を迎えているものがあります。

そのため、地域ケアプラザ・区社協・区役所等がこれから果たして行く役割や業務のあり方について「地域ケアプラザ協働連携指針（仮）」として取りまとめ、「地域における福祉保健の拠点」としての地域ケアプラザの役割を改めて明らかにすることを目指します。

2 策定の具体的な手順

23年度は「地域包括支援センター連携・支援指針」改定を基本としながら、既に整理されているコーディネーターハンドブック部分、地域ケアプラザの事業実績評価、さらには「地域ケアプラザが担うネットワークづくりのあり方検討会」の提言を加味し、高齢分野を中心とした「地域ケアプラザ協働連携指針」として取りまとめます。

24年度は、こども・障害分野も含めた協働連携指針を策定することを目指します。

（1）作業スケジュール

7月（予定）から検討会を開始し、24年3月に「地域ケアプラザ協働連携指針（高齢分野）」として取りまとめ予定。

（2）検討会メンバー

区役所、健康福祉局、関係機関で調整中。

3 策定の視点

- ・地域支えあいネットワークを含むケアプラザを中心としたネットワークのあり方
- ・地域ケアプラザの4職種連携について
- ・区役所福祉保健センターの役割分担
- ・総合相談のあり方
- ・区社協の関わり方 等

4 その他

策定の経過については、策定・推進委員会へ随時報告します。